

# I. 平成24年度事業報告(案)

## 1. 会勢報告

{総務担当：堀江 良典、大内 啓子}

【総 数】

(単位：人)

会 員	平成24年4月1日	平成25年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減
		1,811	1,613	66	264

会員資格

変更

正会員:	1,693	1,537	49	212	-163	+7
準会員:	118	76	17	52	-35	-7

【内 訳】

(単位：人)

支 部	平成24年4月1日	平成25年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減 ( ): 支部間 の移動
北 海 道	48	44	1	6	-5(+1)
東 北	61	58	2	5	-3(0)
関 東	1,015	893	30	154	-124(+2)
東 海	168	150	5	26	-21(+3)
関 西	297	267	18	41	-23(-7)
中国・四国	127	119	6	14	-8(0)
九州・沖縄	78	77	4	6	-2(+1)
国 外	17	5	0	12	-12(0)
賛 助 会 員	34社 35口	33社 34口	0社 0口	1社 1口	-1社 -1口

## 2. 事業報告

{総務担当：堀江 良典、大内 啓子}

平成24年度は、一般社団法人日本人間工学会第3期（平成24年6月～26年6月）の初年度として従来の活動を集約発展させるために、常設委員会の日本学術会議担当・横断型基幹科学技術研究団体連合担当・文科省科研費担当を一体化して学術担当とした。さらに安全人間工学委員会を臨時委員会から常設委員会とし社会のニーズに積極的に対応することとした。公開講座の企画、大会における学会企画シンポジウムの企画等を担当する企画担当を設置した。臨時委員会として、国際人間工学連合PSE担当については藤田祐志氏がIEA副会長に選出されたことを受けてIEA担当とした。学会組織と定款の検討、役員任期及び再任制限に関する検討のため学会組織検討委員会を設置した。このほか、定款ならびに諸規程類の見直し等、制度の整備を行った。

- (1) 平成24年定時社員総会を平成24年6月9日に九州大学において開催し、平成23年度事業報告・収支決算、平成24年度事業計画・収支予算等について審議し、決定した。
- (2) 第53回大会を栃原 裕大会長のもと、平成24年6月9～10日に九州大学大橋キャンパスで開催し、学会企画シンポジウム「最近のディスプレイ技術を巡る人間工学」を企画した。また、第54回大会を堀江良典大会長のもと平成25年6月1日～2日に日本大学生産工学部にて開催することを決定した。
- (3) 日本人間工学会関東支部第42回大会との合同プログラムにて公開講座「人間工学へのご招待ーマンホールの蓋はなぜ丸い？」を12月1日に開催した。
- (4) 平成24年度日本人間工学会研究奨励賞（2件）、人間工学グッドプラクティス賞、優秀研究発表奨励賞（5件）の表彰を行った。
- (5) 理事会を平成24年5月18日、6月8日、6月9日、10月30日、平成25年2月19日の計5回開催した。
- (6) 機関誌「人間工学」の第48巻2～6号及び第49巻1号の計6冊を発行した。
- (7) 人間工学専門家認定機構において、各種の専門家資格の試験を実施した結果、認定試験(A方式試験)合格者9名、筆記試験免除条項を適用した資格認定試験(B方式試験)合格者4名、準専門家合格者8名を新たに得た。その結果、平成24年度末現在の認定人間工学専門家は178名、準専門家97名、アシスタント13名となった。このほか、定期総会、講演会、シンポジウム、セミナーを開催し、会報を4回発行した。
- (8) 以下の常設委員会・担当及び臨時委員会・担当において各事業を積極的に進めた。

### 8-1) 広報委員会

理事会、支部、委員会、研究部会、認定機構などと連携・協力のもと、ホームページを中心に広報活動を推進することによって人間工学の普及に努めた。

### 8-2) 編集委員会

学会誌の定期発行と内容の充実、編集委員会の開催、委員会HPの更新、投稿規程改定のほか、編集委員会の役割の明確化・査読フローの見直し、電子投稿システムの導入、投稿推進策の発案と実施を行った。なお、本年度は投稿論文46編を受け付け、年度内に査読を終了した論文は56編、うち採択されたのは32編（採択率57.1%）であった。

### 8-3) 国際協力委員会

第14回日韓ジョイントシンポジウム（5月25日、済州島・韓国）、2<sup>nd</sup> International Conference of the Southeast Asian Network of Ergonomics Societies（ランカウイ島・マレーシア）に参加。IEA 副会長：藤田理事、IEA ウェブサイト設計：河合教授への国際協力委員会としての協力、斉藤進前理事長のハル・ヘンドリック賞受賞、Asian Conference on Ergonomics and Design (ACED) の推進。

### 8-4) ISO/TC159国内対策委員会

FDIS、DIS等の規格原案に関する計22件の投票を行うとともに、国内委員会を開催し（全体会議4回、分科会28回）審議を行った。また、国際会議出席（21回、のべ56名出席）などによって5件の新ISO規格の発行に寄与した。

### 8-5) 表彰委員会

平成24年度功労賞、研究奨励賞、人間工学グッドプラクティス賞、優秀研究発表奨励賞の授与式を行った。平成25年度各賞の選考を行うとともに、表彰の準備を進めた。また各表彰制度の運営における標準化をはかった。

### 8-6) 安全人間工学委員会

安全人間工学研究部会と当委員会の役割分担を明確にし、当委員会では社会への情報発信、他学会とのリエゾン、日本人間工学会大会と安全工学シンポジウムでのシンポジウム企画を専らとすることとした。

#### 8-7) 学術担当

新たな活動として、学会員が適切な研究活動を行うために必要な研究倫理や行動規範に関わるガイドライン等を整える準備に着手するとともに、著作権規程の改訂を提案した。

#### 8-8) 企画担当

第53回大会において学会企画シンポジウム「最近のディスプレイ技術を巡る人間工学」、関東支部第42回大会との合同プログラムにて公開講座「人間工学へのご招待—マンホールの蓋はなぜ丸い?」を開催した。

#### 8-9) IEA担当

IEA 担当（財務担当副会長）業務を遂行した。また、IEA ウェブサイトのリニューアルに関連する計画、調整を実施した。

#### 8-10) 学会組織検討委員会

理事の再任制限に関する件、定款変更を含む案件の賛否に関する件について審議を行い、結論を理事会へ報告した。

#### 8-11) ウェブアクセシビリティ支援委員会

新しいウェブサイトのデザインとコンテンツを検討して決定し、第1ページについて、アクセシビリティのソフトウェアによる評価を行ない必要な部分の修正を行った。

#### 8-12) 企業の人間工学教育のあり方検討委員会

遠隔支援のWebサイトを改良しながら、中小企業における製品やサービスの設計開発を支援する仕組みを継続的に運用し、今後の課題を検討した。

#### 8-13) 第53回大会担当

「生活の安全・安心を担う人間工学」をテーマとする第53回大会（栃原 裕大会長・九州大学）を6月9～10日に開催し、特別講演2題、海外招待講演、キーノートレクチャー、公開講座（高校生向け）、学会企画シンポジウムを含む9件のシンポジウム、オーガナイズドセッション、182件の一般発表（ポスター発表35件含む）、機器展示、懇親会等を行い約500名の参加者を得て盛会であった。

#### (9) 支部、部会

北海道、東北、関東、東海、関西、中国・四国、九州・沖縄の計7支部と、医療安全研究部会、衣服人間工学部会、触覚インタラクション研究部会、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、看護人間工学部会、情報社会人間工学研究部会、聴覚コミュニケーション部会、安全人間工学研究部会、3D人間工学研究部会、システム大会部会の計12研究部会が、多彩な活動を行った。

(10) 関連学術団体等と、49件の共催・協賛・記事掲載等を行った。

(11) 学会事務局では、管理業務の見直しを行い一層の効率化と経費節減を図った。また、学会誌や大会講演集のJ-Stage への公開を進め、学会HPにおいても迅速な情報提供に努めた。

### 3. 委員会・担当活動

#### [常設委員会・担当]

##### 3-1. 広報委員会

{委員長：榎原 毅、副委員長：松田 文子}

(1) 理事会、支部、委員会、研究部会、認定機構などと連携・協力のもと、ホームページを中心に広報活動を推進することによって人間工学の普及に努めた。

(2) グッドプラクティスデータベース（GPDB）の取り組みを継続し、さらなる人間工学の実践事例公開を通して認知度向上へ努めた。GPDB 関連では、表彰委員会、人間工学専門家認定機構と連携し、グッドプラクティス表彰制度（通称「専門家100名が選んだ人間工学GP賞」）を整備し、表彰のための準備・選考等の推進・支援を行

った。GP 賞の一次選考に用いる投票サイトを表彰委員会と連携して製作した。

- (3) HP のスペシャルコンテンツ「ピックアップがんばる人間工学家！」の企画・運営（取材・記事制作・HP 掲載）を行った（新規記事として2件掲載）。
- (4) 編集委員会と連携を図り、査読の質を高めつつ、投稿者への利便性向上、迅速な審査体制の整備および編集委員会業務の効率化を図る「電子投稿・査読システム」の構築を技術面から支援した（2013年1月より電子投稿開始）。
- (5) 人間工学紹介リーフレット vol.2 の作成を行った。
- (6) 新メディア（Facebook）によるインフラ基盤を活用した広報戦略の検討を行った。
- (7) 横幹連合大会にて人間工学会の取り組みを紹介するポスターを制作、展示した（横幹連合担当との連携）。
- (8) 国内外からの広報関連の問い合わせ対応（e-mail）を行った。
- (9) JES 公開講座 2012 の報告記事を学会誌と HP に掲載した。
- (10) 重要ニュースのお知らせ、学会主催／協賛等のイベント案内等を HP にて迅速に情報発信を行った。

### 3-2. 編集委員会

{委員長：大須賀 美恵子、副委員長：榎原 毅}

#### (1) 会誌「人間工学」の編集・発行

- 1) 平成24年04月：第48巻2号（pp. 55-108, 全54頁）：原著4編, 短報2編他
- 2) 平成24年06月：第48巻3号（pp. 109-162, 全54頁）：原著1編, 短報1編, 総説6他
- 3) 平成24年08月：第48巻4号（pp. 163-216, 全54頁）：原著4編, 短報2編他
- 4) 平成24年10月：第48巻5号（pp. 217-284, 全68頁）：原著6編, 短報1編他
- 5) 平成24年12月：第48巻6号（pp. 285-358, 全74頁）：原著6編, 短報1編他
- 6) 平成25年02月：第49巻1号（pp. 1-42, 全42頁）：原著3編, 資料1編他

#### (2) 編集委員会の開催

奇数月に編集委員会を開催し、開催のない月には電子編集委員会を開催した。また、編集委員会のweb会議による開催方法を検討して試行した。

#### (3) 編集委員会の役割の明確化・査読フローの見直し

第3期編集委員会では、編集委員会の責任を明確にするため、主査は編集委員が務めることとし、論文採録の最終判定を編集委員会で行うこととした。また、新規投稿論文の主査・副査の決定は、委員会開催を待たずに電子会議により速やかに実施することにし、査読期間の短縮に努めた。研究上の倫理的配慮の啓蒙方法について検討して投稿規程に反映し、査読時に倫理的配慮に関する記載のチェックを徹底した。

#### (4) 電子投稿システムの導入

投稿者への利便性向上、迅速な審査体制の整備および編集委員会業務の効率化を図るため、広報委員会と協力・連携して、電子投稿システムを導入した（2013年1月16日運用開始）。さらに、査読管理システムの構築に向けて検討に着手した。

#### (5) 投稿推進策の発案と実施

- 1) 投稿の薦めおよび採録率や査読期間に関する情報をホームページに掲載するとともに、リーフレットを作成して支部大会などのイベントで配布した。
- 2) 支部の協力を得て支部大会の優秀な発表を選定し、該当者に投稿の薦めを発送した。
- 3) 大会発表した研究の投稿を推進するクイック・レビュー制度を発案し、大会事務局の協力を得て実施に着手した。

#### (6) 投稿規程の改定

- 1) 2012年10月30日改定：①電子投稿受付への対応、②参考文献表記の追加（電子資料の表記法）、③図の肖像権に関する記載の追記
- 2) 2013年02月19日改定：①短報の定義の追記、②投稿区分（その他に該当部分）の修正

#### (7) 投稿論文数・採択率

平成24年度に受け付けた投稿論文は46編（原著37編，短報5編，資料3編，技術報告1編）で，採否が判定された投稿論文は全56編（採択全32編：原著23編，短報6編，資料2編，技術報告1編，不採択全24編：原著21編，短報2編，資料1編），取下げが1編．採択率は57.1%であった．

平成24年に受け付けた投稿論文全46編のうち，年度内に査読者が決定した43編を担当した査読者総数は80名（うち非会員者6名，編集委員16名含む），延べ人数は119名（非会員者へは計6編を依頼，編集委員含む）であった．

(8) その他，不適切な論文投稿に関する調査など，編集委員会所掌業務に対応した．

### 3-3. 国際協力委員会

{委員長：小谷 賢太郎、副委員長：鳥居塚 崇}

#### (1) 委員会開催

委員会全体会合を開催（2013. 3. 27）。その他E-mailによる緊密な連絡を実施

#### (2) 理事会審議・報告

IEA 副会長：藤田理事，IEAウェブサイト設計：河合教授への国際協力委員会としての協力、斉藤進前理事長のハル・ヘンドリック賞受賞，Asian Conference on Ergonomics and Design (ACED) の推進についての報告など

#### (3) 国際交流

・第14回日韓ジョイント・シンポジウム、済州島、韓国：平成24年5月25日

ESK関係者7件、JES関係者7件、計14件発表。

・2<sup>nd</sup> International Conference of the Southeast Asian Network of Ergonomics Societies：ランカウイ島，マレーシア：平成24年7月9日～11日

小谷委員長，藤田理事が参加し、福島原子力発電所の事故から学んだこと，浸水時の避難方略についての報告，また，藤田理事はIEA Special Panel にパネラーとして出席，議論を行った。

#### (4) 国際活動関連記事

第48巻2号 2012年IEA理事会参加報告(藤田祐志、堀江良典)

第48巻2号 The 18<sup>th</sup> World Congress on Ergonomics(IEA2012)参加記(水野基樹)

第48巻4号 第14回日韓人間工学会合同シンポジウム参加報告(中田寛、田所克俊)

第48巻4号 SEANES2012参加報告(小谷賢太郎)

第48巻5号 日本人間工学会と中華人民共和国人因工程学会との友好の歴史(堀江良典、斉藤進)

### 3-4. ISO/TC159国内対策委員会

{委員長：横井 孝志、副委員長：吉武 良治}

#### (1) 委員会開催、国際会議出席状況

・国内委員会：全体会議4回、分科会28回（メール審議含む）

・国際会議出席状況：21回の国際会議に延べ56名出席

#### (2) 発行規格、投票

〈新ISO規格〉：5件

・ISO/TR 12296:2012 Ergonomics — Manual handling of people in the healthcare sector

・ISO 15535:2012 General requirements for establishing anthropometric databases

・ISO 9241-143:2012 Ergonomics of human-system interaction — Part 143: Forms

・ISO 9241-154:2013 Ergonomics of human-system interaction — Part 154: Interactive voice response (IVR) applications

・ISO/TR 9241-331:2012 Ergonomics of human-system interaction — Part 331: Optical characteristics of autostereoscopic displays

・ISO/TS 9241-411:2012 Ergonomics of human-system interaction — Part 411: Evaluation methods for the

design of physical input devices

・ISO 28802:2012 Ergonomics of the physical environment — Assessment of environments by means of an environmental survey involving physical measurements of the environment and subjective responses of people

・ISO 28803:2012 Ergonomics of the physical environment — Application of International Standards to people with special requirements

〈投票〉：FDIS 3件、DIS 2件、CD 3件、SR 2件、NWIP 6件、DTS 2件、その他 4件

### (3)分科会活動

- |                              |         |          |
|------------------------------|---------|----------|
| ・SC1(人間工学の一般原則)&WG           | 主査:青木和夫 | 分科会3回開催  |
| ・SC3(人体寸法と生体力学)&WG           | 主査:横井孝志 | 分科会4回開催  |
| ・SC4(人間とシステムのインタラクション)&WG&SG | 主査:山本 栄 | 分科会11回開催 |
| ・SC5(物理的環境の人間工学)&WG&SG       | 主査:栃原 裕 | 分科会4回開催  |
| ・T アクセシブルデザイン関連会議            | 主査:青木和夫 | 分科会4回開催  |
| ・JIS 分科会                     | 主査:米村俊一 | 分科会2回開催  |

## 3-5. 表彰委員会

{委員長:阿久津 正大、副委員長:矢口 博之}

### (1)委員会開催状況

委員会を4月17日(電子メール委員会)、6月9日、8月9日、9月3日、1月11日に開催した。そのほか随時電子メールで討議を進め、下記について活動を行った。

### (2)活動内容

1)各表彰制度の運営における標準化をはかった。

2)日本人間工学会功労賞について

・平成25年度功労賞の受賞候補者を選考し、理事会に上申するとともに表彰の準備を行った。

3)日本人間工学会論文賞について

・平成25年度日本人間工学会論文賞について受賞候補論文の選考と表彰の準備を行った。

4)日本人間工学会研究奨励賞について

・平成24年定時社員総会において、平成24年度研究奨励賞の授与式を行った。受賞論文は、「体格差対応頭部水平歯科治療椅子の開発(筆頭著者:高橋祐一朗氏、共著者:山崎信寿氏)」と「拮抗筋および二関節筋の機能を考慮した下肢筋力の推定手法—垂直跳びにおける下肢筋力の推定—(筆頭著者:西田勇氏、共著者:前田正登氏、川野常夫氏、白瀬敬氏)」であった。

・平成25年度研究奨励賞について受賞候補論文の選考と表彰の準備を行った。

5)人間工学グッドプラクティス賞について(広報委員会との連携事業)

・平成24年定時社員総会において、平成24年度「人間工学グッドプラクティス賞」の授与式を行った。受賞案件は、最優秀賞1件:「鉄道車両用円弧状手すり(公益財団法人鉄道総合技術研究所、株式会社総合車両製作所)」、優秀賞5件:「カシコチェア(株式会社イトーキ)」、「マンモグラフィ乳房X線撮影装置(東芝メディカルシステムズ株式会社、株式会社東芝)」、「ベネッセ学習環境シリーズ『学びデスク&成長チェア』(株式会社ベネッセコーポレーションW&F事業本部通販事業部)」、「トップNANOX(ライオン株式会社)」、「腰痛・肩こり予防活動ガイドブック(名古屋市立大学大学院・榎原毅)」、特別賞7件:「ERGoNoMiX ボールペン(ぺんてる株式会社中央研究所)」、「白物家電を中心とする音声案内を搭載した家電商品(E&U Design)」、「アクエリアスグリップボトル(株式会社コカ・コーラ 東京研究開発センター)」、「東芝マシナールームレスエレベーターSPACEL-EX(東芝エレベータ株式会社、株式会社東芝)」、「ササキ工芸裾上げくつべら革紐付き(株式会社ササキ工芸)」、「丸柄ナナメ杓子(株式会社宮島工芸製作所)」、「視覚的効果の工夫によるわかりやすい情報伝達方法の改善(株式会社ニッセイ)」であった。

- ・平成 25 年度(第 2 回)受賞候補案件の選考と表彰の準備を行った。
- 6) 日本人間工学会優秀研究発表奨励賞について
  - ・第 53 回大会において平成 24 年度優秀研究発表奨励賞の受賞者を選考し、理事会に上申した。また受賞者 5 名に賞状を授与した。
  - ・第 54 回大会での研究発表者が受賞対象となる平成 25 年度優秀研究発表奨励賞の広報と選考準備を行った。
- 7) 日韓シンポジウム功労者表彰について
  - ・第 54 回大会における日韓シンポジウム功労者に対する表彰準備を行った。
- 8) 国際表彰に関して、国際協力委員会と連絡を密にして IEA からの推薦依頼について対応した。また国際協力委員会と表彰委員会の合同 WG を立ち上げ、本学会 HP で各種アワードの紹介・推薦募集等の広報活動及び本学会が候補者を積極的に推薦できる仕組みについて検討した。
- 9) 表彰委員会 HP の開設準備を進めた。

### 3-6. 安全人間工学委員会

{委員長：芳賀 繁、副委員長：首藤 由紀}

- (1) 青木(日大)・小松原(早大)・佐相(電力中央研究所)・首藤(社会安全研究所)・中西(慶應義塾大)・芳賀(立教大)に加え、平成 24 年 7 月から酒井一博(労働科学研究所)を加えた 7 人の委員で活動した。
- (2) 安全人間工学研究部会と当委員会の役割分担を明確にし、当委員会では社会への情報発信、他学会とのリエゾン、日本人間工学会大会と安全工学シンポジウムでのシンポジウム企画を専らとすることとした。
- (3) 安全工学シンポジウム 2012 の運営委員として青木が、同 2013 の運営委員として佐相がシンポジウムの運営に協力した。
- (4) 安全人間工学研究部会が主催、共催する研究会の企画・立案・実施をサポートした。

### 3-7. 学術担当

{担当：斉藤 進、青木 和夫}

2011 年度まで学会内に設置されていた日本学術会議担当、横断型基幹科学技術研究団体連合担当及び文科省科研費担当を再編成し、継続的に実施する事業として 2012 年度に学術担当を設置した。再編成した趣旨は、これらの役割を統合することにより互いの連携を図ることにある。また、学術担当の新たな活動として、学会員が適切な研究活動を行うために必要な研究倫理や行動規範に関わるガイドライン等を整える準備に着手するとともに、著作権規程の改訂を提案した。

日本学術会議における公開講演会やシンポジウム等の開催案内は、学会ホームページの「周辺領域 > 日本学術会議ニュース・メール」欄に継続的にリンク掲載することにより、年間 100 件程度の学術還元活動を学会員へ情報提供することにした。横断型基幹科学技術研究団体連合の活動には、本学会から青木和夫理事長を役員として推薦し、理事として横幹コンファレンスの運営などに積極的に参加した。また、横幹連合加盟学会として、文科省等に対する「教員養成コア・カリキュラムへの教科横断的問題解決教育の提言」へ意見を提出した。

科学研究費助成事業の「系・分野・分科・細目表」は 5 年及び 10 年ごとに改正されており、「人間工学」を採択するよう文部科学省等へ要望を続けているところである。平成 25 年度の公募より適用される「系・分野・分科・細目表」には、情報学、環境学及び複合領域の 3 分野で構成される総合系が創設された。「人間工学」は、総合系 > 情報学分野 > 人間情報学学科 > ヒューマンインタフェース・インタラクション細目のキーワード(12)人間工学、及び生物系 > 生物学分野 > 人類学学科 > 応用人類学細目のキーワード(2)人間工学となった。また、総合系 > 情報学分野 > 人間情報学学科 > 認知科学細目のキーワード(17)安全・ヒューマンファクターズ、及び総合系 > 複合領域分野 > 社会・安全システム科学学科 > 社会システム工学・安全システム細目のキーワード B(26)労働安全衛生が新設された。さらに、これまでの時限付き分科細目から、「デザイン学」と「子ども学」が総合系 > 複合領域の分科と細目に新設された。

### 3-8. 企画担当

{担当：河合 隆史、青木 和夫}

- (1) 日本人間工学会 第 53 回大会において学会企画シンポジウム「最近のディスプレイ技術を巡る人間工学」を開催した。
- (2) 公開講座として、日本人間工学会関東支部第 42 回大会との合同プログラム「人間工学へのご招待ーマンホールの蓋はなぜ丸い？」を開催した。

### 3-9. 人間工学専門家認定機構

{機構長：吉武 良治 副機構長：福住 伸一}

- (1) 会員状況 (2013 年 3 月 31 日現在)
  - 人間工学専門家 178 名 (H24 年度 資格取得者 13 名、退会者 1 名)
  - 人間工学準専門家 97 名 (H24 年度 資格取得者 8 名、退会者 2 名)
  - 人間工学アシスタント 13 名 (H24 年度 退会者 1 名)
- (2) 資格認定試験実施状況
  - 資格認定試験 (A 方式試験) を 1 回実施、受験 9 名、合格 9 名であった。また、筆記試験免除条項の適用 (B 方式試験) を年 1 回実施、受験 4 名、合格 4 名。準専門家に応募 14 名、書類審査に 14 名が合格。
- (3) 定期総会・講演会の開催
  - 講演会 日時：2012 年 4 月 19 日 (木) 14 : 00~15 : 50
  - 会場：中央大学駿河台記念館 510 号室 (総会も同じ)
  - 講演：伊藤一也 (日産自動車株式会社) 演題：「生涯現役な専門家を目指して」
  - 講演：倉持淳子 (シャープ株式会社) 演題：「使ってみたいモノづくり」
  - 総会 日時：2012 年 4 月 19 日 (木) 16 : 00~17 : 00
  - 出席者：23 名、委任状：82 名
- (4) 幹事会の開催
  - 第 28 回 日時：2012 年 7 月 18 日 (水) 17 : 00~19 : 00
  - 会場：日本大学理工学部駿河台 5 号館 590 会議室
  - 第 29 回 日時：2013 年 3 月 13 日 (水) 17 : 00~19 : 00
  - 会場：日本大学理工学部駿河台 5 号館 590 会議室
- (5) 再認定の実施
  - 人間工学専門家 3 名、人間工学準専門家 14 名の再認定手続きが完了した。
- (6) シンポジウムの開催
  - 下記 3 つの大会、国際学会にて専門家機構にてシンポジウムを主催した。
  - 1. 日本人間工学会第 53 回大会 (2012/6/9、福岡) 「人間工学専門資格の魅力と実力」
  - 2. APCHI 2012 (2012/8/29、松江) 「Industrial Session」
  - 3. 日本人間工学会第 42 回関東支部大会 (2012/12/1) 「人間工学はどのように活用されているか?ー認定人間工学専門家の実践事例紹介」
- (7) 2012 年 12 月に機構ホームページの全面リニューアルを行った。
- (8) CPE セミナーの開催
  - 日時：2012 年 10 月 17 日 (水) 14 : 00~17 : 00
  - 会場：公益財団法人鉄道総合技術研究所
- (9) 会報作成
  - 会報を 4 回発行した。
- (10) 人間工学グッドプラクティス (GP) 賞
  - 表章委員会と協力し、認定人間工学専門家により一次審査を実施する GP 賞を設置し、6 月の大会にて第一回の表章を行った。

## [臨時委員会・担当]

### 3-10. IEA 担当

{委員長：藤田 祐志}

- (1) IEA 担当（財務担当副会長）業務を遂行した。業務は、前財務担当副会長からの権限委譲に係る正式手続き、会費の徴収、EC 会議（12 月中国）への参加、個別会議（台湾）への参加ほか
- (2) IEA ウェブサイトのリニューアルに関連する計画、調整を実施した

### 3-11. 学会組織検討委員会

{委員長：酒井 一博、副委員長：外山みどり、松岡敏生}

学会活性化へ向けて、懸案事項であった役員の任期および再任制限に関する検討を行い、以下の結論を得た。

#### 1. 理事の再任制限に関する審議

- ①理事の再任制限について、再任に制限を設けることとする。
- ②制限の内容として、任期は「連続して2期（4年）まで」として、任期終了後は、「1期（2年）経過すれば被選挙権を得る」ものとする。

#### 2. 定款変更を含む案件の賛否に関する審議

- ①定款 40 条第 2 項（議事録）を改正する。  
改正案：代表理事及び出席した監事は、前項の議事録に記名押印する。
  - ②委員会委員として正会員以外を認めるよう定款 41 条第 3 項を改正する。
  - ③支部長の任期を 2 年とし、選挙日程を本部選挙日程に合わせるよう理事会もしくは学会本部から各支部に要請する。
  - ④支部規程を HP 等で公開するよう理事会もしくは学会本部から各支部に要請する。
- 以上の結論は、平成 25 年 2 月 19 日開催の第 19 回理事会に報告した。

### 3-12. ウェブアクセシビリティ支援委員会

{委員長：青木 和夫}

- (1) 新しいウェブサイトのデザインとコンテンツを検討して決定した。
- (2) ウェブサイトの構築を行う発注先を株式会社デジタルウェイに決定し、発注を行った。
- (3) 作成された新しいウェブサイトの第 1 ページについて、アクセシビリティのソフトウェアによる評価を行ない必要な部分の修正を行った。
- (4) IEA Executive Committee メンバーに新しいウェブサイトの評価をしてもらい、おおむねよい評価を得た。またコンテンツの原稿について IEA の各担当者へ原稿の依頼をした。

### 3-13. 企業の人間工学教育のあり方検討委員会

{委員長：酒井 一博、副委員長：易 強}

- (1) 昨年度に引き続き、静岡県工業技術研究所が事務局を務める「静岡県ユニバーサルデザイン・工芸研究会」と協力し、遠隔支援の Web サイトを改良しながら、中小企業における製品やサービスの設計開発を支援する仕組みを継続的に運用し、今後の課題を検討した。
- (2) よい成果については、本学会のグッドプラクティスデータベースの推薦を行い、掲載につなげるよう努めた。
- (3) これまでの活動を総括し、今後の活動方針について多様な意見を得るため、第 53 回大会において、委員会主催のシンポジウム「設計・改善活動など人間工学の実践とビジネスへの貢献」を開催した。

### 3-14. 第53回大会 担当

{担当：栢原 裕}

2012年6月9日(土)～10日(日)、日本人間工学会第53回大会を九州大学大橋キャンパス(芸術工学研究院、福岡市南区)にて開催した。参加者数は正会員272名、学生会員35名、非会員(一般)78名、非会員(学生)81名、賛助会員24名、その他12名の合計502名であった(大会学生スタッフは除く)。懇親会は大会初日(9日)夜にタカラホテル福岡にて開催した。参加人数は約180人であった。

大会では、「生活の安全・安心を担う人間工学」をコンセプトとして、特別講演2題、海外招待講演、キーノートレクチャー、公開講座(高校生向け)、学会企画シンポジウムを含む9件のシンポジウム、オーガナイズドセッション、182件の一般発表(ポスター発表35件含む)が行われた。また、実験施設公開(環境適応研究実験室、居住空間実験住宅など)やCGアート紹介が行われた。

本大会の開催に際しまして、ご尽力をいただきました理事の皆様、演題を寄せられた会員の皆様、賛助金、展示や広告を頂いた企業の皆様に厚く御礼申し上げます。また、本大会は九州支部の多くの会員の皆様にご協力頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。

本大会の開催報告については人間工学48巻4号に掲載されています。

## 4. 支部活動

### 4-1. 北海道支部

{支部長：横山 真太郎}

#### (1) 会議

- 1) 支部役員会 平成24年8月3日(金)
  - ・平成23年度 支部事業報告
  - ・平成23年度 決算報告並びに監査報告
  - ・平成24年度 予算案
  - ・平成24年度 支部事業計画案
  - ・平成24年度 総会について
  - ・平成25年度 支部大会および総会について
  - ・その他

#### (2) 平成24年度支部総会

大会長：三上 行生(北海道工業大学)

日時：平成24年11月10日(土)

場所：北海道工業大学

##### 1) 支部総会議題

- ・平成23年度支部事業報告
- ・平成23年度決算報告並びに監査報告
- ・平成24年度予算案
- ・平成24年度支部事業計画
- ・平成25年度北海道支部大会開催について

##### 2) 北海道支部40周年記念大会

特別講演 神代雅晴先生(日本予防医学協会理事長)

一般演題 6題

## 4-2. 東北支部

{支部長：北村 正晴}

### (1) 支部役員会

- ・支部役員会 24-1

1) 日時：平成24年5月26日(土) 13:00～14:00

2) 場所：東北大学工学研究科 総合研究棟 第2講義室(110号室)

3) 議事：平成24年度 支部総会議案の確認

なお支部役員会に関しては、メール審議を活用する方針につき審議、了解。

- ・支部役員会24-2

1) 日時：平成25年3月23日(土) 13:30～14:30

2) 場所：東北大学工学研究科 総合研究棟 第2講義室(110号室)

3) 議事：平成24年度事業および決算報告

平成25年度事業計画に関する討議

### (2) 定時支部総会

1) 日時：平成24年5月26日(土) 14:00～15:00

2) 場所：東北大学工学研究科 総合研究棟 第2講義室(110号室)

3) 議事：平成24年度役員選出

平成23年度事業報告および決算報告

平成24年度事業計画案および事業予算案

その他

### (3) 支部研究会等

- ・支部研究会24-1

1) 日時：平成24年11月24日(土) 14:00～17:00

2) 場所：山形テルサ「特別会議室」山形市双葉町

3) 研究会テーマ：「まちなか情報提示における人間工学」

講演1 山形市観光協会サイネージから見た設置場所の活用提案

講師：岩瀬 義和 氏 (株式会社デジコンキューブ代表取締役)

講演2

講師：土屋 浩 氏 (株式会社ハイテックシステム代表取締役)

指名討論者コメント

コメンテーター：古藤 浩 氏 (東北芸術工科大学准教授)

山口 俊憲 氏 (山形産業技術短大准教授)

全体討論 司会：本多 薫 氏 (山形大学教授)

参加者 16名

- ・支部研究会24-2

1) 日時：2013年2月2日(土) 13:00～17:00

2) 場所：東北大学 工学研究科総合研究棟 第二講義室(110号室)

3) 研究会テーマ：「防災・危機管理のための市民向け情報提示技術」

講演1：防災・危機対応のための情報提供に関わる研究

講師：仲谷 善雄 氏 (立命館大学教授)

講演2：災害時応用のための次世代ブラウザ技術を用いた端末連携技術

講師：井原 雅行 氏 (NTT サービスエボリューション研究所)

総合討論

参加者 17名

- ・支部研究会24-3

- 1) 日時：2013年3月23日（土） 14:30～17:00
- 2) 場所：東北大学 工学研究科総合研究棟 第二講義室（110号室）
- 3) 研究会テーマ：「実践家と研究者の新たな協働関係を探る」  
講演：現場の人間工学実践から  
講師：堀江 良典 氏（日本大学生産工学部 教授）  
総合討論

参加者 14名

#### 4-3. 関東支部

{支部長：阿久津 正大}

##### (1) 第42回関東支部大会

- ・開催日：平成24年12月1日（土）～2日（日）
- ・会場：埼玉県立大学 越谷キャンパス
- ・大会長：徳田哲男先生
- ・特別講演1件、地域公開講座1件、企画セッション:4件18題、一般演題:57題
  - ①特別講演 「身体を研ぎ澄ました街と環境の観察・発見法」、講演者：小林茂雄先生
  - ②地域公開講座（日本人間工学会との共催）  
「人間工学へのご招待 マンホールの蓋はなぜ丸い?」、講演者：徳田哲男先生
  - ③企画セッション  
「人間工学はどのように活用されているか?—認定人間工学専門家の実践事例紹介」  
演題6題（人間工学専門家認定機構）  
「薬物治療の危機管理に貢献する技術」演題4題（定本清美 他）  
「ソーシャルセンタードデザイン（SCD）を考える」演題5題（アーゴデザイン部会）  
「視覚と人間工学」演題3題（感性情報処理・官能評価部会）
- ・参加者：185名

##### (2) 支部委員会

- ・開催日：平成24年12月1日（土） 会場：埼玉県立大学 越谷キャンパス

##### (3) 支部総会

- ・開催日：平成24年12月1日（土） 会場：埼玉県立大学 越谷キャンパス

##### (4) 卒業研究発表会

- ・運営委員長：矢口博之先生
- ・開催日：平成24年12月1日（土） 会場：埼玉県立大学 越谷キャンパス 演題数：46題

##### (5) 見学会

- ・開催日：平成25年3月27日（金） 会場：独立行政法人 海上技術安全研究所  
操船リスクシミュレータ、実海域再現水槽の見学など
- ・参加者：26名

##### (6) ニュースレターの発行：見学会、第43回関東支部大会の案内（2月）

#### 4-4. 東海支部

{支部長：斎藤 真}

##### (1) 平成24年度一般社団法人日本人間工学会東海支部総会

- ・開催日時：平成24年5月12日（土） 15:00-16:30
- ・場所：名城大学名駅サテライト多目的室

## (2) 講演会の開催

- ・開催日時：平成24年5月12日(土) 16:30-17:30
- ・場所：名城大学名駅サテライト多目的室
- ・演題：「能率心理学から KAIZEN-人間工学の視点から」
- ・演者：前中京大学教授、高崎経済大学名誉教授 岸田孝弥氏

## (3) 支部役員会

- ・支部長選出および役員改選
- ・第1回支部役員会 平成24年5月12日(土) 名城大学名駅サテライト
- ・第2回支部役員会 平成24年12月22日(土) 名城大学名駅サテライト

## (4) 日本人間工学会東海支部2012年研究大会

- ・開催日：2012年10月27日(土)
- ・開催場所：名城大学(名古屋市天白区)
- ・大会長：横森 求(名城大学)、 実行委員長：福田康明(名城大学)
- ・特別講演：「人を中心にしたデザイン」岡 雄一郎氏(アイシン精機(株))
- ・学生支援特別企画「企業との架け橋-東海支部プログラム」
- ・一般講演39題、参加者109名

## 4-5. 関西支部

{支部長：森本 一成}

### (1) 企画・行事等

#### 1) 見学会&講演会

JR西日本 大阪ステーションシティ(大阪市)

開催日：平成24年11月9日(金)

時間：15:00-16:30(集合14:55 ホテルグランヴィア20F クリスタルルーム、解散16:30) 参加者26名  
街づくりコンセプトなどの説明、施設紹介の後、施設内の見学と意見交換

#### 2) 支部大会

開催日：平成24年12月8日(土)

主催：日本人間工学会関西支部、関西大学

場所：関西大学 千里山キャンパス

大会長：小谷賢太郎(関西大学 システム理工学部 教授)

事務局長：鈴木 哲(関西大学 システム理工学部 准教授)

行事内容：

\*特別講演 「水災害時の浸水リスクと安全避難」

関西大学環境都市工学部 石垣泰輔 教授

\*企画セッション

OS1「論理的GUI設計方法の提案」

企画セッション1(発表5件)、一般発表10セッション(発表36件)

#### 3) 春季講演会

第一部・講演会：顧客接点で得られる大規模データを活用したサービス工学の実践

第二部・パネルディスカッション：サービスの価値づくり・コトづくりの工学とは？

開催日：平成25年3月23日(土)

会場：学校法人常翔学園大阪センター 毎日インテシオ 3F 301/302

【講師】

本村陽一先生 独立行政法人 産業技術総合研究所 サービス工学研究センター 副センター長

#### 【パネラー】

本村陽一先生 独立行政法人 産業技術総合研究所  
松波晴人先生 大阪ガス行動観察研究所所長  
新家 敦先生 株式会社島津ビジネスシステムズ

#### 【講演概要】

無形性、異質性などの特性を持つサービスを対象とした工学を実践するためには、モノではなくコトに対する計算をどのように実現するかが重要な課題になる。そこでサービス現場、とくに顧客接点において生成される大規模データを通じて、サービスという現象に対する制御を行う事例研究や、そのための計算モデル手法などを紹介する。

#### 4) 協賛

§ 平成 24 年度応用物理学会関西支部シンポジウム「最先端の脳科学とその将来」

主催：応用物理学会関西支部

日時：2012 年 11 月 15 日（木）10:00～16:15

場所：島津製作所関西支社マルチホール

（大阪市北区芝田 1-1-4 阪急ターミナルビル 14F, 阪急梅田駅前）

- ◆「脳の構造と特徴－機能的神経科学を目指して」 塩坂 貞夫（奈良先端科学技術大学院大学）
- ◆「脳科学と社会をつなぐ」 佐倉 統（東京大学大学院）
- ◆「非侵襲的脳機能計測」 井上 芳浩（島津製作所）
- ◆「侵襲的脳機能計測」 鈴木 隆文（情報通信研究機構）
- ◆「ブレインマシンインターフェイス」 牛場 潤一（慶應義塾大学）
- ◆「脳科学の臨床応用 -てんかんなど-」 加藤 天美（近畿大学）計測自動制御学会関西支部

#### (2) 会議・総会等

##### 1) 第1回企画幹事会

開催日：平成24年 6月 6日（水）

会 場：京都工芸繊維大学

##### 2) 第2回企画幹事会

開催日：平成24年 9月10日（月）

会 場：京都工芸繊維大学

##### 3) 第1回評議員会役員会合同会議

開催日：平成24年12月 8日（土）

会 場：関西大学

##### 4) 第3回企画幹事会

開催日：平成25年 1月11日（金）

会 場：京都工芸繊維大学

##### 5) 平成25年度～平成26年度評議員選挙

投票期間：平成25年 1月 17日（木）～ 1月31日（木）

##### 6) 第4回企画幹事会

開催日：平成25年 1月31日（木）

会 場：学校法人常翔学園大阪センター

##### 7) 選挙管理委員会

開催日：平成25年 2月15日（金）

会 場：大阪大学

##### 8) 会計監査

開催日：平成25年3月15日（金）

会 場：京都工芸繊維大学

9) 第2回評議員会役員会合同会議

開催日：平成25年 3月23日（土）

会 場：学校法人常翔学園大阪センター

10) 支部総会

開催日：平成25年 3月23日（土）

会 場：学校法人常翔学園大阪センター

出席者：28名(委任状36名)

11) 優秀発表賞授賞式（支部総会時）（当年度支部大会発表の学生・若手研究者が対象）

〔発表者〕

片平建史（関西学院大学大学院）

〔発表題目〕

「微細気泡浴の主観評価に基づく快適性評価と体表温度に対する影響の検討」

〔発表者〕

加藤雅也（立命館大学 情報理工学部）

〔発表題目〕

「睡眠時体動の計測手法の違いによる特徴抽出」

〔発表者〕

喜井翔太郎（大阪府立大学 工学部）

〔発表題目〕

「ヒューマンモニタリングシステムの開発 ―自律型表情モニタリングシステムの構築―」

〔発表者〕

杉本潤哉（立命館大学 情報理工学部）

〔発表題目〕

「体性感覚刺激における活性度の変化：f-NIRS 研究」

12) その他、評議員会・企画委員会のメール会議を実施

#### 4-6. 中国・四国支部

{支部長：村田 厚生}

(1) 支部理事会開催

第1回 2012年12月15日（土）川崎医療福祉大学

第2回 2013年4月2日（火）岡山大学大学院自然科学研究科棟 2F201 会議室

(2) 支部総会開催

2012年12月15日（土）川崎医療福祉大学

(3) 第45回日本人間工学会中国・四国支部大会

2012年12月15日（土）

川崎医療福祉大学

大会長：田口豊郁先生（参加者：約130名）

一般講演 74件

講演論文集広告掲載企業数：2社

(4) 支部講演会開催

開催日：2012年12月15日（土），場所：川崎医療福祉大学

題目：「大原孫三郎と倉敷労働科学研究所」

講師：酒井一博氏（公益財団法人労働科学研究所 所長）

開催日：2012年7月17日（火），場所：広島大学工学部104講義室

題目：「筋肉を規範としたアクチュエータの確率的制御」

講師：上田淳氏（ジョージア工科大学ジョージW. ウッドラフ機械工学科 助教授）

(5) 平成24年度支部表彰の実施

支部表彰選考委員（岡久雄副支部長（岡山大学），田口豊郁支部理事（川崎医療福祉大学），平雄一郎支部理事（水産大学校））による絶対評価を実施した結果，総得点の上位3位に入った以下の3編の論文が優秀論文として表彰された。

講演番号：403

エアパック型体表脈波センサを利用した脈波変動解析

松岡玄樹（広島大学），伊藤雅史，平野博大，平野陽豊，栗田雄一（広島大学大学院），小島重行，小倉由美，藤田悦則（榊デルタツーリング），中村隆治，佐伯昇，河本昌志，吉栖正生，辻敏夫（広島大学大学院）

講演番号：106

居眠り運転予測に適した時間帯の検証

林和也，村田厚生，早見武人（岡山大学大学院）

講演番号：311

視線入力における最適な文字入力方法の検証

林和也，村田厚生，森若誠，早見武人（岡山大学大学院）

#### 4-7. 九州・沖縄支部

{支部長：和田 親宗}

(1) 第33回支部評議員会

1) 月 日：平成24年11月17日（土）

2) 会 場：西日本工業大学小倉キャンパス（北九州市）

3) 議 題

- ・平成24年度活動報告と決算
- ・平成25年度活動計画と予算案
- ・平成25年度第34回大会について
- ・支部規約変更
- ・優秀発表賞の創設
- ・その他

(2) 第33回支部総会

1) 月 日：平成24年11月17日（土）

2) 会 場：西日本工業大学小倉キャンパス（北九州市）

3) 議 題

- ・平成24年度活動報告と決算
- ・平成25年度活動計画と予算案
- ・平成25年度第34回大会について
- ・支部規約変更
- ・優秀発表賞の創設
- ・その他

(3) 第33回九州・沖縄支部大会

（人類動態学会西日本地方会第37回大会との合同開催）

- 1)月 日:平成24年11月17日(土)
- 2)会 場:西日本工業大学小倉キャンパス(北九州市)
- 3)大会長:中島浩二(西日本工業大学)
- 4)発表演題数:計10件

特別講演

講演:山谷幹夫(TOTO 歴史資料館館長)

演題:トイレの歴史とウォシュレット誕生秘話

参加者:28名(支部会員10名、非会員18名)

最優秀発表賞:Qian Xie(九州大学)

優秀発表賞:西川孝広(九州大学)ならびに中島弘貴(九州大学)

懇親会:西日本工業大学小倉キャンパス

- (4)「九州支部第33回大会講演集(九州人間工学 第33号)」の作成
- (5)「九州人間工学 第33号」の発送

## 5. 研究部会活動

### 5-1. 航空人間工学部会

{部会長:田中 敬司}

(1)目的

航空人間工学に関する知識の普及および情報の共有化を目的として、本年度は、「事故を未然に防止するために(その2)」をテーマとした活動を行った。

(2)方法

上期の活動として例会を開催した。また、下期の活動として施設見学会を行った。概要は以下のとおりである。

1)例会

第94回例会を東京代々木のオリンピック記念青少年総合センターで開催した。本年度のテーマ「事故を未然に防止するために(その2)」に沿って検討した。例会には、93名が参加し活発な議論が行われた。

日時:平成24年6月29日(金) 10:30~16:30

場所:オリンピック記念青少年総合センター(東京・代々木)

講演:

- ・演 題 「事件事例分析:トルコ航空1951便墜落事故」  
講演者 高橋 健 氏(日本航空株式会社 安全推進本部)
- ・演 題 「PBN時代の飛行方式 - その安全維持のために必要なもの -」  
講演者 中西 善信 氏(株式会社NTT データアイ 第一事業部 空域ソリューション担当)
- ・演 題 「視覚による滑走路誤進入防止対策(RWSL)」  
講演者 堅山 孝治 氏(国土交通省 航空局 交通管制部 交通管制企画課)
- ・演 題 「次世代の航空機:ボーイング787」  
講演者 塚本 真己 氏(全日本空輸株式会社 運航本部グループフライト  
オペレーション品質企画室品質企画部 兼 AQP  
導入準備室 B787 機長・教官)

2)施設見学会

平成24年度施設見学会を東立川駐屯地にて行った。防衛省技術研究本部 航空装備研究所にて、パイロットを取り巻くハードウェア環境(航空機アビオニクス、エンジン、ミサイル等)について研修した。総計40名の参加があった。

日時：平成25年2月1日（金）13：30～16：40

場所：防衛省東立川駐屯地（防衛省技術研究本部 航空装備研究所）

内容：東立川駐屯地内研究施設の見学

- ・ 研究施設の概況説明
- ・ 防衛省技術研究本部 航空装備研究所の施設見学  
（アビオニクス研究施設、ミサイルシミュレータ、球形飛行体デモ等）

### 3) 委員会

本部会の運営に係る方針を決定するために、今年度は2回委員会を開催した。委員会の概要は以下のとおりである。

#### ・ 第55回委員会

日時：平成24年11月16日（月） 16：00～17：00

場所：（財）航空輸送技術研究センター（ATEC）会議室

議題：

- ・ 委員の交代等
- ・ 第94回例会（平成24年6月29日開催）報告
- ・ 航人部会ホームページの修正
- ・ 今年度見学会の準備
- ・ 来年度例会の準備
- ・ 次回委員会

#### ・ 第56回委員会

日時：平成25年3月18日（月） 17：00～18：00

場所：（財）航空輸送技術研究センター（ATEC）会議室

議題：

- ・ 委員の交代等
- ・ 平成24年度会計報告
- ・ 平成24年度事業報告
- ・ 平成25年度事業計画
- ・ 次回例会（第95回）準備

その他、委員会および例会の活動準備等のため、平成24年度は幹事会を3回開催した。

### 4) ホームページの運営

インターネットホームページにより、非会員も含め多くの関係者に対して航空人間工学への理解・関心を深めることに貢献した。また、例会及び施設見学会の申し込みをホームページから行えるようにしたことで会員の利便性を高めた。

ホームページには過去に開催された例会の講演内容を掲載し、また、抄録集の販売を行い、例会に出席できなかった会員に対する支援等を行った。

### 5) 例会資料の電子ファイル化の継続

第94回例会（2012年6月開催）資料をCD-ROMに記録し、これを継続して財団法人日本航空協会の運営する航空図書館に寄贈した。

### (3) 成果及び展望

本年度のテーマ「事故を未然に防止するために（その2）」に関して、例会では講演を通して、事故事例分析（トルコ航空1951便墜落事故）、PBN時代の飛行方式、視覚による滑走路誤進入防止対策（RWSL）、次世代の航空機（ボーイング787）についての情報を共有した。また、活発な質問や議論により参加者の理解を深めることができ、安全意識等の啓発に寄与したものと推測される。

次年度のテーマ設定については、航空を取り巻く最近の動向を踏まえつつ、会員の興味を引く設定とし、活動を継続・展開することにより、より充実化を図り、当部会の目標である航空人間工学の発展、航空安全の推進に

寄与できるものとする。

PBN : Performance Based Navigation (性能準拠型航法)

RWSL : Runway Status Lights (滑走路状態表示灯システム)

## 5-2. アーゴデザイン部会

{部会長：上田 義弘}

### (1) 活動テーマ：

「HCD+SCD を考えるー人間中心と社会環境中心の双方からアーゴデザインを考えるー」

### (2) 部会運営と主な活動内容

- ・部会員：138名(正会員95名、学生会員43名、2013年3月31日現在)
- ・活動概要：2012年度は、シンポジウム等3回、コンセプト事例発表会1回、見学会1回、合宿研究会1回、加えて、新規活動として大学間交流イベントを開催。他に、幹事会7回、総会1回、SCD-WG ミーティング3回、ビジョンデザイン方法論WG ミーティング3回等、様々な活動を実施してきた。以下に主な活動を記す。

#### 1) 大学間交流イベントービジョン提案型デザイン手法を使ってみようー開催(平成24年6月30日)

於：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス、参加者：学生28名、教員4名

#### 2) 「エクスペリエンス・ビジョン」出版記念フォーラム開催(平成24年7月20日)

於：東京ミッドタウン・デザインハブ、参加者：100名

#### 3) 「エクスペリエンス・ビジョン」出版記念シンポジウム・ワークショップ開催(平成24年8月23日)

於：首都大学東京サテライトキャンパス、参加者：86名

#### 4) コンセプト事例発表会開催(平成24年9月12日)

於：首都大学東京サテライトキャンパス、参加者：75名

論文発表：10件、ポスター発表：13件、加えて「HCD+SCD」に関するテーマディスカッションの実施

#### 5) 見学会開催(平成24年11月21日)

見学先：JR東日本東京総合車両センター、参加者：35名

#### 6) 日本人間工学会第42回関東支部大会「SCDについて」のオーガナイズドセッション開催(平成24年12月2日)

於：埼玉県立大学、参加者：15名

#### 7) 2012年度合宿研究会In湘南国際村(平成24年3月15日、16日)

於：湘南国際村センター会議室、参加者：36名

テーマ：「SCD(ソーシャルセンタードデザイン)で提案する」ワークショップ

#### 8) 2012年度部会総会開催(平成25年3月16日)

於：湘南国際村センター会議室、参加者：36名

2012年度活動報告及び決算、2013年度活動計画及び予算の審議、承認

### 9) WG 活動：

- ・ビジョンデザイン方法論-WG 活動中(担当幹事：山崎、早川、柳田、郷、高橋(克)、上田)
- ・SCD-WG 活動中(担当幹事：高橋(克)、山崎、八木、郷、西内、安藤、笠松、上田)
- ・ホームページ-WG 活動中(担当幹事：吉井)

#### 10) 独自ドメインによるアーゴデザイン部会ホームページの運用、部会員メーリングネットワークの運用、幹事会メーリングネットワークの運用

### (3) 成果と展望：

- ・ビジョン提案型デザイン手法に関する本を出版、手法の公開と普及を推進できた。
- ・これまで研究してきたHCDに、社会、環境面からもデザインを考える「SCD(ソーシャルセンタードデザイン)」アプローチを加え、アーゴデザインを追求する研究が本格化してきた。

- ・アーゴデザイン研究の方向として、SCDについてさらに広く、深く、具体的に議論を展開する必要がある。
- ・その上で、SCDを実践するためのアプローチ、プロセスや手法について議論を深め、HCD+SCDを実践するためのデザイン方法論の確立を目指す。

### 5-3. 感性情報処理・官能評価部会

{部会長：山下 利之}

#### (1) 活動目的

当部会の活動目的は、人間の感性情報処理、および官能評価に関わる広範囲の研究領域に携わる研究者が、相互に刺激を与え合う場を作ることである。

#### (2) 手段・方法

その手段として本年度に当部会が取り組んだ方法は、学術講演会の実施、関東支部大会におけるシンポジウムの企画、部会員、特に若手研究者のシステム大会における発表の促進である。関東支部大会の企画シンポジウムは、3名の講演者、1名の指定討論者により「知覚と人間工学」というテーマで実施した。学術講演会は、システム大会の特別セッションとして、石原正規氏（首都大学東京）が「反応時間からみたヒトの空間知覚と内的表象」というテーマで講演を行った。知能情報ファジィ学会関東支部（第39回大会）、21世紀科学と人間シンポジウム（第6回大会）と共催した第21回人間工学会システム大会では、院生、学部生による8件の発表が行われ、若手の研究者の育成に寄与した。

#### (3) 活動内容

- 1) 第42回日本人間工学会関東支部大会において、企画シンポジウム「知覚と人間工学」を開催した。
- 2) 本年度は「身体活動と認知」をテーマに学術講演会を行った。  
学術講演会（平成25年3月15日（金）、文化学園大学）
  - ・石原正規（首都大学東京）「反応時間からみたヒトの空間知覚と内的表象」
- 3) 第21回人間工学会システム大会への若手研究者の発表を促した。その結果、院生、学部生による8件の発表があり、若手の研究者育成に寄与した。

#### (4) 成果と問題点

学術講演会では、心的表象と身体的反応が密接に関連していることを論じた「反応時間からみたヒトの空間知覚と内的表象」を取り上げ、その領域の最先端で活躍している研究者を招いてお話を伺い、活発な議論を展開した。また、システム大会では、積極的に若手の発表を促し、大学院生を中心とする計8件の研究報告があり、若手の研究意識を高める上で効果があったと思われる。

しかし、予定していた研究機関への見学会を実施できなかった。平成25年度はさらに講演会、研究会を増やすと同時に、見学会を行い、部会メンバーの学識を豊かにするとともに、システム大会における若手研究者の発表をさらに増やしていきたい。

### 5-4. 看護人間工学部会

{部会長：佐伯 由香}

#### (1) テーマ

看護人間工学の教育方略に関する研究ならびに人間工学に基づいた看護人間工学の独自性を明確に打ち出し研究成果を看護実践・教育現場にフィードバックする。

#### (2) 手段・方法

- 1) 第20回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会開催

平成24年9月1日（土）に横浜市において神奈川県立保健福祉大学看護学科の水戸優子教授が主催した。一般演題の発表、慶応義塾大学 山崎信寿先生による教育講演「本音に寄り添う製品開発」ならびに株式会社 シリウスライティングオフィス 戸垣浩人先生による特別講演「東京スカイツリーのライティングデザイン」が

行われた。

- 2) 「人間工学」誌に部会会員が論文投稿するようよびかけた。
- 3) 看護人間工学研究誌第13巻を発行(平成25年3月)し、部会員に送付した。
- 4) ホームページやメーリングリストを活用し、日本人間工学会第53回大会への参加を広くよびかけた。

#### (3) 成果

- 1) 第20回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会  
参加者は約31名、一般演題11題が発表した。教育講演、特別講演、いずれも活発な意見交換が行われた。今後の研究に役立つ内容であった。
- 2) 部会会員による日本人間工学会誌への論文投稿  
短報がVol. 48, No. 3に1編掲載された。
- 3) 看護人間工学研究誌第13巻を発行(平成25年3月)し、部会員に送付した。  
寄稿1編、原著1編、研究報告1編、短報1編、特別講演報告1編、第20回看護人間工学部会抄録などを掲載した。

#### (4) 問題

- 1) 看護人間工学部会会員で、まだ日本人間工学会に加入していない会員がいる。
- 2) 「人間工学」「看護人間工学研究誌」への投稿が少ない。
- 3) 部会のホームページの英語版を設けることを目標として取り組んできたが、出来ていない。

#### (5) 展望

- 1) 看護人間工学部会員の人間工学会への入会促進に向けて引き続き取り組んでいく。
- 2) 本部会での研究発表と「人間工学」「看護人間工学研究誌」への投稿を促進する。
- 3) 看護人間工学部会のホームページの英語版を設ける。
- 4) 看護人間工学研究誌、研究発表会の充実をはかる。

## 5-5. 情報社会人間工学研究部会

{部会長：平沢 尚毅}

### (1) 平成24年度活動テーマ

「医療システムにおける情報通信技術の応用に対する人間工学の可能性と課題」について探求した。社会制度から見た医療システムのあり方について、人間工学的な課題について探求した。

### (2) 活動内容(手段・方法)

- 1) NPO法人HCTM(Health Care Technology Management)リサーチセンターとのワークショップの共催  
2013年2月18日(月)、東海大学にて「人間工学からリハビリテーション医療環境を考える」というテーマでワークショップを開催した。このワークショップは、言語聴覚士協会の協力を得て、協会の副会長である東北文化学園大学の長谷川賢一先生から講演をいただいた。講演会后、参加者全員が、リハビリ医療制度、チーム医療のあり方などを議論し、更に、これらに対する情報通信技術のあり方を検討した。

### 2) 役員会

今年度の役員会は、役員全員の日程調整がうまくゆかなかったために、ワークショップ担当役員間での打ち合わせを行った。

### (3) 成果

ワークショップでは、リハビリテーション医療関係者、医療システム研究者、情報システム研究者および実務者などが議論することによって、様々な活動の接点があることがわかると同時に、新たな視点を導入により、新たな気づきを得ることができた。人間工学は、様々な専門性の仲介役として機能することを見いだすことができた。

### (4) 問題点

内容の深いワークショップであり、参加者の関心も高かったが、開催準備に手間取り調整が遅れたため、参加

者が少ない結果となった。今後、開催の広報を適切に考慮して実施する必要がある。

#### (5) 展望

今回は、人間工学、ヘルスケア技術管理、情報システム、リハビリ医療などの平素は接点が少ない関係者が協同することによって、新たな気づきを得る可能性が生まれている。今後も、情報社会人間工学研究部会は異分野との協同についても模索してゆく予定である。

## 5-6. 聴覚コミュニケーション部会

{部会長：江袋 林蔵}

### (1) テーマ 人間工学における聴覚研究のミッション

概要 平成24年度は、第2会期・第4年次に当たった。Ergonomicsの分野における聴覚を中心とした独自の研究領域の探索を具体的に考えた第2会期・第3年度の活動に続き、24年度も、新たな展開を期待して引き続き既成学会の活動に倣いつつ活動を図ってきた。

### (2) 聴覚コミュニケーション研究のミッション

Ergonomics 分野における独自の研究領域開拓を図る。

### (3) 方法

1) JES 内他部会との交流・研究会の開催・および他学会との交流。

2) 幹事会の開催

3) ニュースレターの発行

平成24年度展望を踏まえ前年度に準じて活動する。また、日本音響学会聴覚研究会が九州で開催される場合は共催を予定すると共に、JES システム大会部会に参加し JES 内他部会との交流を図りつつ研究領域のあり方を模索する。

### (4) 成果

概要 平成24年度は、JES 第53回大会におけるシンポジウムの開催と発表への参加、音響学会の他音声学会その他の研究会関係者の参加を得た AEG 研究会の開催、音響学会聴覚研究会との研究会の開催が予定通り進行した。しかし、JES システム大会部会への参加については各種事情により取りやめとなった。平成24年度は、当部会設立9年に当たるが、10年目の節目を迎えるにあたり当初目的を達成しつつある状況にあると考える。

#### 1) 研究会の開催・他学会との交流

##### a) JES53 回大会参加活動

##### ① シンポジウム

JES53 回大会における当部会シンポジウムは、当部会幹事 岩宮慎一郎（九州大学）を座長として6月9日（土）

S-4「音環境の安全と安心と快適性をつくる」をテーマとして開催された。その演題を以下に示す。

S4-1 携帯型音楽プレイヤーの使用実態 沢村真理子（九州大学）、岩宮慎一郎（九州大学）

S4-2 高齢者の聞こえを考慮した安全・安心・快適な音響環境とは  
水浪田鶴（産業技術総合研究所）、倉片憲二（産業技術総合研究所）

S4-3 安全安心と快適性を考慮した次世代自動車の走行音設計のために  
山内勝也（長崎大学）、坂部佑磨（九州大学）、伊藤健二（九州大学）、井上さやか（九州大学）、岩宮慎一郎（九州大学）

S4-4 医療検査機器における警報音のデザイン 前田耕造（ジューバック）、松尾謙二郎（インビジュアルデザインラボ）、湊 幸雄（シムックス）、水本 徹（シムックス）、有吉俊輔（シムックス）

##### ② 一般講演 騒音・聴覚

1C3-1 低周波音の人体に及ぼす影響 大井星十（日本大学）、田井 貴（ミツバ）、町田信夫（日本大学）、松田 礼（日本大学）

1C3-2 種々の保護具併用に伴うイヤーマフの遮音値減少とその聴力影響 伊藤昭好（産業医科大学）、中野 晃（住友金属テクノロジー）、井上仁郎（産業医科大学）、後藤敏明（エクソモバイル）、橋本晴男（エクソモバイル）

1C3-3 抱きかかえ式スピーカーが及ぼす脳波への影響 伊藤龍一 (新居浜工業高等専門学校)、吉川貴士 (新居浜工業高等専門学校)

1C3-4 新規構造クラシックギターの実験と評価特性計測 徳弘一路 (神奈川工科大学)、佐川有志 (神奈川工科大学)、渡辺浩嵩 (神奈川工科大学)、梅田 勲 (パラコーン楽器)

1C3-5 聴覚コミュニケーション研究のErgonomics 江袋林蔵 (SAU 研究機構)

1C3-6 音声認識実用化のErgonomics 江袋林蔵 (SAU 研究機構)

b) 第6回聴覚コミュニケーション部会 (AEG) 研究会

第6回 AEG 研究会は、音響学会からの招待講演者・音声学会からの発表参加者を得て、9月7日に新宿・工学院大学オープンキャンパスにおいて開催された。演題内容から、当部会内に止まらず、CPE 機構その他の研究会にも広報を試みた結果、多くの研究者の参加を得た。その演題を以下に示す。

招待講演

AEG2012-01 聴覚心理の知見を用いた新商品・新サービスの企画開発～マーケティング・商品企画から商品開発まで 坂本真一 ((株)オトデザイナーズ)

一般講演

AEG2012-02 パラコーン社製新構造バイオリンの計測実験と性能評価

徳弘一路 (神奈川工科大学・昭和音楽大学)、赤堀友哉 (神奈川工科大学)、梅田 勲 (パラコーン社)

AEG2012-03 MM則の成立に関する一考察

江袋林蔵 (SAU 研究機構)

AEG2012-03 聴覚補助器を評価するための話者弁別尺度プロトタイプの開発

籠宮隆之 (産業技術総合研究所)、中川誠司 (産業技術総合研究所)

c) 第8回共催 音響学会聴覚研究会

第8回共催 音響学会聴覚研究会は、12月15～16日門司海員会館において開催された。紙幅の都合で発表内容は省略するが、演題件数16件、内英語発表6件(1件は和語論文・英語口頭発表)であった。

2) 幹事会の開催

平成22年度初頭に部会内広報(ニュースレターNo.63)を通じて承認された既存の組織で引き続き運営されている幹事会は、通常インターネットを介して行われているが、平成24年度は、翌平成25年度が当部会設立当初に設定した活動期間10年の節目に当たるため、平成24年6月9日に対面幹事会を開催し、その審議を行った結果、部会活動の終結が決定された。結果は、同日 JES 会長に報告(口頭)され、平成24年度の活動を見守りつつ、ニュースレターNo.88にて部会内に広報された。最終年度に至る部会長・幹事・役員は以下の通りである。

部会長 江袋林蔵、(庶事/渉外)

幹事会 岩宮真一郎(九州大学/渉外)、徳弘一路(神奈川工大/資料編纂)、

水浪田鶴(産総研/広報)

顧問 倉片憲二(産総研)

3) 広報活動

a) ニュースレターを No. 88 迄発行した。

b) 他学会との交流は、音響学会・音声学会・その他の研究会活動を通して行われており、社会的意義とその有用性に関する相互の理解と認識に貢献していると考えられる。

(5) 課題

他学会との交流維持・研究会の継続が順調に推移する中、部会活動の終結が議決されたが、部会発起人の一人から、当該分野における聴覚コミュニケーション研究への関心を維持するようアドバイスをいただいた。

(6) 展望

研究会終結後も新たな視点からの当該分野における聴覚研究の体系化を期待したい。

## 5-7. 安全人間工学研究部会

{部会長：芳賀 繁}

- (1) 研究部会の会員（日本人間工学会会員資格を有する者＝H25年3月末現在32名）と、研究会の参加者を結ぶメンバーリスト（H25年3月末現在155名登録）を用いた情報発信を行っている。幹事は鳥居塚（日大）・中西（慶應義塾大）・吉村（海技研）。安全人間工学委員会の委員も部会運営に協力した。
- (2) 平成24年度は5回の研究会を開催（主催・共催を含む）した。その日時、場所、演題は下記のとおりである。
- 1) 第11回研究会（日本認知心理学会安全心理学研究部会と共催）  
日時：平成24年5月18日（金）18時30分～20時00分  
場所：日本大学理工学部駿河台キャンパス 1号館2階122会議室  
話題提供者：小林立樹氏（東武鉄道）  
「東武鉄道の安全への取組み～東日本大震災後の課題と対応～」
  - 2) 第12回研究会（日本認知心理学会安全心理学研究部会と共催）  
日時：平成24年6月23日（金）14時00分～16時00分  
場所：立教大学池袋キャンパス7号館7201教室  
話題提供者：森泉慎吾氏（大阪大学）  
「リスクテイキング行動尺度の作成と信頼性・妥当性の検証」
  - 3) 第13回研究会（日本認知心理学会安全心理学研究部会と共催）  
日時：平成24年9月14日（金）10時00分～12時00分  
場所：早稲田大学西早稲田キャンパス55号館2階第3会議室  
話題提供者：小松原明哲氏（早稲田大学）  
「レジリエンス行動がもたらす事故を分析するFRAM：functional resonance analysis method」
  - 4) 第14回研究会（産業・組織心理学会部門別研究会および日本認知心理学会安全心理学研究部会と共催）  
日時：平成24年12月8日（金）14時00分～16時30分  
場所：日本大学経済学部7号館（東京都千代田区三崎町1-3-2）  
「交通・運輸の各モードにおける安全の実践と研究  
～国際民間航空、韓国鉄道、そして我が国の道路運送～」  
話題提供者：  
本江 彰 氏（日本ヒューマンファクター研究所）  
具 星會 氏（韓国鉄道公社 安全室 安全支援処）  
鈴木 一弥 氏（労働科学研究所）  
コメンテータ：井上 枝一郎 氏（関東学院大学）  
司会：細田 聡 氏（労働科学研究所）
  - 5) 第15回研究会（日本認知心理学会安全心理学研究部会と共催）  
日時：平成25年3月1日（金）10時00分～12時00分  
場所：早稲田大学西早稲田キャンパス62号館1階 中会議室  
タイトル：重大事故にみる長距離トラック、バス運転者の勤務と休息条件  
話題提供者：酒井一博 氏（労働科学研究所）

## 5-8. 3D 人間工学研究部会

{部会長：河合 隆史}

- (1) 活動目的  
平成24年度の活動では、立体映像（3D）の急速な普及に伴う人間工学的課題としてテレビ放送に着目し、研究者や事業者との最新の情報共有を目的とした、シンポジウムを企画した。
- (2) 手段・方法・成果

2012年10月25～26日に、日本科学未来館にて開催された「Digital Content Expo 2012」において、企画シンポジウム「3Dテレビに関する取り組みと今後の展開」を、総務省と日本人間工学会とで共催した。

総務省 情報通信国際戦略局 通信規格課が事務局を務めた「3Dテレビに関する検討会」では、3D放送を実施している事業者を含めた放送事業者、通信事業者、受信機メーカーのほか、医療関係者・大学等の有識者等が参画し、3Dの安全・快適性について検討を行った。本シンポジウムでは、当該検討会における成果の概要と同時に、日本人間工学会における関連する取り組みについて紹介・議論を行った。

### (3) 展望

平成24年度に開催したシンポジウムでは、多くの方々に参加いただき、3Dの人間工学的課題に対する関心の深さを確認することができた。今後は、最新の研究成果を共有する場の継続に加えて、新たな切り口、視点からの議論を盛り込んでいきたい。

## 5-9. 医療安全研究部会

{部会長：土屋 文人}

### (1) 活動目的

昨今多発している医療事故の多くは、医薬品や医療用具と人間との間のインターフェースあるいは人間同士におけるコミュニケーションに問題があると考えられる。臨床で発生した事故あるいはヒヤリハット事例の報告が外部から参照できるようになった今、その問題解決のために人間工学的観点から医療安全を図る方策を検討することによって、医療安全に寄与することを目的とする。

### (2) 活動内容及び成果

本年度も当初は昨年度（平成24年3月29日開催）同様「医薬品の使用の安全」シンポジウムの開催を計画したが、諸般の事由で開催を断念した。過去、人間工学会大会、関東支部大会をはじめとして海外の学会発表を含め医薬品関連の学会発表等について資料集およびCDが3年毎に作成されていることから本年度分の発表内容についてその情報のまとめを行った（次回作成は平成26年度末の予定）。

## 5-10. 衣服人間工学部会

{部会長：高部 啓子}

### (1) 活動目的

当部会は、平成24年度より「グリーンファッションに関する研究」をテーマに活動を開始することとした。エコが世界的に撮り正されている昨今、衣服の分野においても具体的にどのように取り組むかを研究するものである。まずは、衣服の構造・デザインや衣服材料の使い方などの分野について、勉強会や見学会を開催することを企画し、現状を把握することを目的とした。

### (2) 活動内容

平成24年度は、役員会を3回、例会2回を開催した。活動内容と演題は以下の通りである。

1) 第1回役員会：平成24年12月8日、 於 文化学園大学

2) 第2回役員会：平成25年2月20日、 於 株式会社三徳

3) 第3回役員会：平成25年3月13日、 於 文化学園大学

#### 4) 第1回例会

開催日：平成24年12月8日

場 所：文化学園大学

演 題：「布の力、布の魅力」

講演者：東京造形大学 教授 須藤 玲子氏

#### 5) 第2回例会

開催日：平成25年2月25日

見学先：株式会社 三徳

内 容：プリーツ加工工場、衣服縫製工場見学

参加者：部会長以下 25 名

(3) 成果

- ・第1回例会では、布そのものをそのまま使用することだけではなく、廃棄寸前のものに如何に息を吹きかけるかという点に着目して、作品を製作する過程の工夫が製品開発にも似たものであることに感銘を受けた。また、廃品への着目の仕方についても解説があった。まさしくエコでありながら古さを感じさせない新たな視点を見た思いがした。
- ・第2回例会では、都内に少なくなったプリーツ加工工場のデザイン的工夫を見学することが出来た。加工分野では新しいものは1年も経たず古いものとして見られがちな為次から次への工夫が求められる。しかし、これらへの対応は困難を極めることであると見学を通して痛感した。新しい工夫は価値を生み出す努力を重ねているという点で、じっくり使いこなすこともエコであり、日本の技術開発を護ることであったと感じた。

(4) 問題点

- ・以前から問題点として挙げているが、産学共同で、より衣服人間工学発展のため、さらに議論・検討を進める必要がある。
- ・衣服の作り手側だけではなく消費者の考え方にも、一緒にエコを進める工夫が必要である。

(5) 展望

- ・今年度の工場見学から、この分野での産学協同研究の可能性を感じた。ものづくりに関わる中、小企業等への研究成果の発信を積極的に展開していきたい。
- 次年度以降も、グリーンファッションの考えかたについて勉強会を積極的に進めたい

## 5-11. 触覚インタラクション研究部会

{部会長：小谷 賢太郎}

(1) 活動目的

本部会は、ヒトの触覚感覚という特性を機器やシステムなどに反映させることを研究する部会であり、触覚に関する基礎研究と応用研究の両側面を扱おうとしている。特に応用研究では実際の製品設計プロセスで活用できるノウハウを蓄積し、それらを積極的に公開することで触覚インタラクションの活用を促進することを目的としている。

(2) 活動内容及び成果

- 1) 日本人間工学会全国大会 (2012年6月9日：九州大学) において「人間工学領域における触覚インタラクション研究のいまとこれから」と題するオーガナイズドセッションを行った。5件の発表があった。
- 2) HCI International 2013 において Tactile and haptic interaction in HCI と題するオーガナイズドセッションを行うための準備を行った。7件の発表を予定している。
- 3) 2013年3月27日に研究部会が行われた。研究部会の環境整備、定期行事の確認、ホームページの更新および触覚研究関連情報の発信手段の検討などの打ち合わせを行った。

## 5-12. システム大会部会

{部会長：衛藤 憲人}

(1) 活動テーマ:

感性情報処理・官能評価部会、聴覚コミュニケーション部会、旧ヒトをはかる部会、旧座研究部会、旧視覚エルゴノミクス研究部会が中心となり、人間工学システム大会と称して20年前に発足した。2012年度より衛藤憲人(東海大学)が世話人となり、文化学園大学新宿キャンパス(新宿区)で3月15日、16日の二日間開催され、

のべ100名を超える参加者があった。大会および大会開催に向けて数回の幹事会を開いたので報告する。

(2) 部会運営と主な活動内容

システム大会幹事会

・第1回システム大会幹事会

日時：9月8日(土)18:00～21:00

場所：文化大学(新宿)

議題：本大会の今後の事業形態について、次回開催地、開催形態 等

・第2回システム大会幹事会

日時：10月13日(土)15:00～18:00

場所：文化大学(新宿)

議題：参加費、夜話、セッション、広報、その他部会運営について

・第3回システム大会幹事会

日時：2月9日(土)15:00～17:00

場所：文化大学(新宿)

議題：HPの作成などについて、HPの作成資料、JES誌告知文検討、プログラム枠作成、企業展示検討、他

(3) 展望：部会活動の中心的課題である「人間工学のシステム関連の分野を包括した研究」を続け、電子媒体を駆使しながら、活動する。

### Ⅲ. 平成 25 年度事業計画(案)

#### 1. 事業計画

{総務担当：堀江 良典、大内 啓子}

- (1) 一般社団法人日本人間工学会は、安寧な社会システムを構築するために、人間工学を実践する学術団体として寄与することを目指す。
- (2) 第54回大会を堀江良典大会長のもと平成25年6月1日(土)～2日(日)に日本大学生産工学部で開催する。
- (3) 平成25年定時社員総会を平成25年6月1日(土)に日本大学生産工学部において開催し、平成24年度事業報告・収支決算、平成25年度事業計画・収支予算の審議等を行う。
- (4) 第55回大会を川野常夫大会長のもと平成26年6月5日(木)～6日(金)に神戸コンベンションセンター「神戸国際会議場」で開催することとし、準備を進める。
- (5) 理事会を年4回以上開催する。
- (6) ホームページのコンテンツの充実、機能の追加をはかり、ホームページを中心に広報活動を推進することで人間工学の普及に努める。
- (7) 機関誌「人間工学」の第49巻2～6号および第50巻1号の計6冊を発行する。
- (8) 認定人間工学専門家資格認定試験(A方式試験)を年1回、筆記試験免除条項の適用(B方式試験)を年1回実施、また人間工学準専門家および人間工学アシスタント各試験を年4回程度実施する。その他、再認定制度(生涯研修制度)推進等の活動を行うとともにシンポジウム、講演会、セミナーを開催し、資格制度の対外アピールを積極的に行う。
- (9) 長期的に事業を行う常設委員会・担当と、特定の目標を定め次年度総会までに得られた成果を学会として組織的に活用する臨時委員会・担当を置く。常設委員会・担当としては、広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159国内対策委員会、表彰委員会、安全人間工学委員会、学術担当、企画担当、人間工学専門家認定機構を設ける。また臨時委員会・担当として、50周年準備委員会、IEA担当、学会組織検討委員会、ウェブアクセシビリティ支援委員会、選挙管理委員会、第54回大会担当、第55回大会担当を設置し、各事業を積極的に進める。
- (10) 支部活動および研究部会活動を推進し、その成果を学会員ならびに社会に広める。研究部会は情報社会人間工学研究部会、聴覚コミュニケーション部会、安全人間工学研究部会、3D人間工学研究部会、医療安全研究部会、衣服人間工学部会、触覚インタラクション研究部会、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、看護人間工学部会、海事人間工学研究部会、システム大会部会の計13部会で活動を行う。
- (11) IEA(国際人間工学連合)と連携して様々な国際協力活動を推進する。IEAウェブサイトのリニューアル支援、次年度IEA理事会への出席準備、IEAアワード申請への協力、IEA内の各委員会の協力をを行う。平成25年6月1日～2日に日本大学生産工学部で開催されるESK(大韓人間工学会)/JES合同シンポジウム2013への協力。
- (12) ISO/TC159(人間工学)分野の規格の作成・審議および人間工学JIS規格の作成、普及・啓蒙のための活動を行う。
- (13) 平成25年度各賞の授与式および日韓シンポジウムのESK側功労者に対する表彰を行う。また平成26年度各賞の選考を行うとともに、表彰の準備を進める。各表彰制度の運営および国際表彰への対応の仕組みの整備を進める。
- (14) 安全問題にかかわる人間工学会の様々な活動に関する提言、助言、実務を行う。
- (15) 日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローする。日本人間工学会に相応しい研究活動に関する行動指針等を検討する。
- (16) 学会主催の公開講座、シンポジウム等の行事に関する企画と調整を行う。
- (17) 学会事務局は、学会内外の情報伝達の要としての役割を果たすとともに、迅速で正確な業務の執行に努め、学会運営の基盤を支える。また、適宜業務内容を見直し、その効率化と経費節減をはかる。

## 2. 委員会・担当活動

### [常設委員会・担当]

#### 2-1. 広報委員会

{委員長：榎原 毅、副委員長：松田 文子}

- (1) 理事会、支部、委員会、研究部会などと連携・協力のもと、ホームページを中心に広報活動を推進することによって人間工学の普及に努める。コンテンツの充実、機能の追加、そしてホームページの運用プロセスの整備を行う。
- (2) グッドプラクティスデータベース (GPDB) の取り組みを継続し、さらなる人間工学の実践事例公開を通して認知度向上へ努める。表彰委員会・人間工学専門家認定機構と連携し、「専門家 100 名が選んだ人間工学 GP 賞」を活用した情報発信を行う。
- (3) HP のスペシャルコンテンツ「ピックアップがんばる人間工学家！」の企画・運営（取材・記事制作・HP 掲載）を引き続き行い、人間工学人材の社会における活躍を積極的に情報発信する。
- (4) 編集委員会と連携を図り、投稿者への利便性向上、迅速な審査体制の整備に必要な電子査読システムの開発を技術面から支援する。
- (5) 人間工学関連リーフレットの全国大会・支部大会などでの配布を行い、特に人間工学初学者・学生などへの啓発活動を推進する。
- (6) Facebook 等、新メディアによるインフラ基盤を活用した広報戦略の検討と運営方針の整備を行い、年度内の運用開始を目指す。
- (7) 支部大会講演集など、各方面で利用要望の高い学会ロゴについて、ロゴ規程の整備を行う。

#### 2-2. 編集委員会

{委員長：大須賀 美恵子、副委員長：榎原 毅}

- (1) 学会誌「人間工学」の年6号分の通常編集・発行業務を行う。
- (2) 「人間工学領域発展のための場」としての学会誌のあり方について引き続き検討する。特に、50周年の節目に相応しい企画を立案する。前年度着手したクイック・レビュー制度の実践と評価を行なう。
- (3) 引き続き研究上の倫理的配慮の啓蒙を行なうとともに、学術担当とも連携し、投稿論文の著作権移譲手続きの見直しと著作権規程の改定、利害相反に関する考え方の整理を行う。
- (4) 投稿者への利便性向上、迅速な審査体制の整備および編集委員会業務の効率化を図るため、広報委員会と協力・連携し、電子査読管理システムの構築を行う。
- (5) 編集委員会（全体会議）は年3回程度とし、開催のない月には東京・大阪・名古屋の3拠点を結んだweb会議による編集委員会、あるいはメーリングリストを活用した電子編集委員会を開催する。
- (6) その他、編集委員会所掌業務への迅速な対応をはかる。

#### 2-3. 国際協力委員会

{委員長：小谷 賢太郎、副委員長：鳥居塚 崇}

- (1) 日韓共同シンポジウム 2013（第54回大会 日本大学）の JES 窓口として会員参加への協力
- (2) IEA 理事会(8月24~25日)への参加 パリ(フランス)  
国際協力委員が JES からの council member として3名分の投票権執行
- (3) 国際協力活動およびその他
  - ・IEA アワード申請への協力
  - ・IEA 内の各委員会への協力
  - ・Asian Conference on Ergonomics and Design (ACED)開催に向けての JES の貢献の可能性について検討

・学会内各委員会などへ国際協力委員としての参加

## 2-4. ISO/TC159国内対策委員会

{委員長：横井 孝志、副委員長：吉武 良治}

ISO/TC159 (人間工学) 分野の規格の提案、作成、審議、ならびに人間工学JIS規格の作成、普及・啓蒙のための活動を行う。

(1) 会議：全体会議4回、分科会延べ30回前後開催予定

(2) 予定されている主な審議項目

- ・ SC1 (人間工学の一般原則)
  - ・ 人間工学設計に関するプロセス規格の検討
- ・ SC3 (人体寸法と生体力学)
  - ・ ISO/DTR 12295 Ergonomics — Application document for ISO standards on manual handling (ISO 11228-1, ISO 11228-2 and ISO 11228-3) and working postures (ISO 11226)
- ・ SC4 (人間とシステムのインタラクション)
  - ・ ISO/DIS 9241-391 Ergonomics of Human System Interaction — Part 391: Requirements, analysis and compliance test methods for the reduction of photosensitive seizures
  - ・ ISO/CD 9241-392 Ergonomics of human-system interaction — Part 392: Ergonomic requirements for the reduction of visual fatigue from stereoscopic images
  - ・ ISO/CD 9241-940 Ergonomics of human-system interaction — Part 940: Evaluation of tactile and haptic interactions
  - ・ ISO/AWI 9241-960 Ergonomics of human-system interaction — Part 960: Framework and guidance for gesture interactions
  - ・ ISO/DIS 11064-4 Ergonomic design of control centres — Part 4: Layout and dimensions of workstations
  - ・ ISO/DTS 20282-3 Usability of consumer products and products for public use — Part 3: Test method for consumer products
  - ・ ISO/NP 9241-220 Ergonomics of human-computer interaction — Part 220: Processes for enabling, executing and assessing human-centred design within organizations
- ・ SC5 (物理的環境の人間工学、特別な配慮を必要とする人々のための物理環境)
  - ・ ISO/WD 7726 Ergonomics of the thermal environment—Instruments for measuring physical quantities
  - ・ ISO/NP TR 15742 Ergonomics of the physical environment — Combined effects of thermal environment, air pollution, acoustics and illumination on humans
  - ・ ISO/AWI TR 16594 Guide for working practices for moderate thermal environments
  - ・ ISO/DIS 24504 Ergonomics — Accessible design — Sound pressure levels of spoken announcements for products and public address systems
  - ・ ISO/CD 24505 Ergonomics — Accessible design — Method for creating colour combinations taking account of age-related changes in human colour vision

(3) 国際会議予定

- ・ TC159 総会(2013年10月：濟州島) 他各 SC、WG の国際会議複数予定

## 2-5. 表彰委員会

{委員長：阿久津 正大、副委員長：矢口 博之}

(1) 委員会開催

委員会を5回開催する。そのほかに随時電子メールで討議を行い、下記の活動を進める。

## (2)活動内容

- 1)表彰制度の整備等に資するために、他学会等の表彰制度に関わる情報を収集する。
- 2)既存の表彰制度の整備を継続して行い、充実化をはかる。
- 3)平成 25 年定時社員総会において平成 25 年度「日本人間工学会功労賞」の受賞者に対する授与式を行う。また平成 26 年度「日本人間工学会功労賞」の受賞候補者を選考するとともに、表彰の準備を行う。
- 4)平成 25 年定時社員総会において平成 25 年度「日本人間工学会論文賞」の受賞者に対する授与式を行う。また平成 26 年度「日本人間工学会論文賞」の受賞候補論文を選考するとともに、表彰の準備を行う。
- 5)平成 25 年定時社員総会において平成 25 年度「研究奨励賞」の受賞者に対する授与式を行う。また平成 26 年度「研究奨励賞」の受賞候補論文を選考するとともに、表彰の準備を行う。
- 6)平成 25 年度(第 2 回)人間工学グッドプラクティス賞の受賞候補案件を選考するとともに、表彰の準備を進める。平成 25 年定時社員総会において平成 25 年度「人間工学グッドプラクティス賞」の受賞案件に対する授与式を行う。また同賞の平成 26 年度(第 3 回)受賞候補案件を選考するとともに、表彰の準備を行う。
- 7)第 54 回大会における「日本人間工学会優秀研究発表奨励賞」の受賞者を選考し、表彰を行う。また第 55 回大会における同賞受賞者の選考に向けて広報と表彰の準備を行う。
- 8)第 54 回大会において日韓シンポジウムの ESK 側功労者に対する表彰を行う。
- 9)国際表彰に関して、国際協力委員会と連絡を密にして IEA からの推薦依頼等について対応する。また国際協力委員会と連携し、本学会 HP で各種アワードの紹介・推薦募集等の広報活動及び本学会が候補者を積極的に推薦できる仕組みを整備し、運用を進める。
- 10)表彰委員会 HP を開設し、不十分であった表彰に関する広報活動を積極的に進める。

## 2-6. 安全人間工学委員会

{委員長：芳賀 繁、副委員長：首藤 由紀}

- (1) 四半期ごとに委員会を開催し、安全問題にかかわる人間工学会の様々な活動に関する提言、助言、実務を行う。
- (2) 日本人間工学会第 54 回大会でシンポジウムを企画する。
- (3) 日本学術会議安全工学シンポジウムの運営委員を選出するとともに、オーガナイズド・セッションを企画する。
- (4) 安全人間工学研究部会の運営をサポートする。

## 2-7. 学術担当

{担当：斉藤 進、青木 和夫}

学術担当として、日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローする計画である。

科研費へ応募された課題審査に重要な役割を担っている分科細目表は、文科省により 5 年ごとの見直しと 10 年に一度の大幅な改正が行われている。平成 25 年度の公募より大幅な改正が行われており、平成 30 年度の公募から適用される分科細目表について次回改正が行われるものと考えている。そのためには、平成 28 年に改正案が決定されることが必要であり、平成 27 年春より文科省において検討が始められことを学術担当としては想定し対応する計画である。

学術担当の新たな重要な任務として、学会員が適切な研究活動を行うための研究倫理や行動規範をガイドライン等の文書として策定し、広くお知らせすることが必要と考えている。具体的には、日本学術会議の平成 15 年「報告 科学における不正行為とその防止について」、同会議の平成 17 年「報告 科学におけるミスコンダクトの現状と対策」、同会議の平成 18 年「声明 科学者の行動規範について」、文科省の平成 18 年「報告 研究活動の不正行為への対応のガイドラインについて」、同省「平成 24 年版科学技術白書」、科学技術振興機構の平成 24 年「パンフレット 研究者のみなさまへ～研究活動における不正行為の防止について～」、ICMJE「生物医学雑誌への統一投稿規定：生物医学研究論文の執筆および編集（2010 年 4 月改訂版）」等々を参考とし、学術担当に「行動規範ガ

イドライン分科会(仮称)」を新たに設置し、日本人間工学会に相応しい研究活動に関する行動指針等を検討する。本活動に編集委員会や広報委員会等の協力を得て、学会内外に向けて参考となる価値ある方針等を積極的に発信することにより、透明性と公平性を担保した信頼性の高い学会運営を目指す前向きな行動規範等の内容としたい。

## 2-8. 企画担当

{担当：河合 隆史、青木 和夫}

- (1) 学会の公開講座等の企画を行う。
- (2) 大会における学会企画シンポジウムの企画を行う。
- (3) その他、学会主催の行事に関する企画と調整を行う。

## 2-9. 人間工学専門家認定機構

{機構長：吉武 良治、副機構長：福住 伸一}

- (1) 資格認定試験を実施する。  
資格認定試験（A方式試験）を年1回、筆記試験免除条項の適用（B方式試験）を年1回実施する。準専門家・人間工学アシスタント試験を年4回程度実施する。  
A方式試験：2013年9月6日(金) 東京
- (2) 定期総会、講演会、幹事会を開催する。  
総会 日時：2013年4月26日(金) 16:00～17:00  
会場：中央大学駿河台記念館 610号室  
講演会 日時：2013年4月26日(金) 14:00～15:50  
会場：中央大学駿河台記念館 510号室  
講演：岡田 衛 (レノボジャパン株式会社)  
演題：「ノートブック/タブレットPC開発のユーザー調査について」  
講演：森口喜代 (キヤノン株式会社)  
演題：「キヤノンにおける人間工学の取り組み」  
幹事会 (2回開催予定)
- (3) 再認定を促進する。
- (4) シンポジウムを開催する。  
日本人間工学会第54回大会(日大・津田沼校舎)においてシンポジウムを行う。
- (5) JES学会誌へGP賞紹介記事を企画し、推進する。
- (6) 機構ホームページ、会報、学会大会、広告等を活用して会員の交流と本制度の対外アピールに努める。
- (7) 人間工学グッドプラクティスデータベース作成に積極的に協力する。
- (8) IEA 専門家教育委員会の活動に協力する。
- (9) 学会内組織、他学会、他の資格認定組織との連携を行う。
- (10) CPE セミナーを開催する。

## [臨時委員会・担当]

## 2-10. 50周年準備委員会

{担当：齊藤 進、青木 和夫}

日本人間工学会は、1963年12月に設立総会及び第1回研究会を開催しており、2013年12月に設立50周年を迎える。研究会は当初は年2回開催され、1965年からは研究会を大会として位置付けるとともに、学会誌「人間

工学」を1965年に発刊し、現在では創刊号からすべてJ-STAGEにより電子的に公開している。2009年6月には第50回記念大会をつくば市の産業技術総合研究所で開催し、また同年7月に学会は一般社団法人として生まれ変わった。2013年6月には、第54回大会を習志野市の日本大学生産工学部において、国際人間工学連合会長のEric Min-yang Wang氏等を迎えて開催する。1963年の学会設立から50周年となる2013年度の事業計画として50周年準備委員会を設置し、記念事業等を企画し実施することにした。

50周年記念事業等の企画化には、理事会、各支部、各委員会・担当、各研究部会等々の協力を得て内容の充実を図ることとする。周年事業期間としては2013年12月～2014年12月の一年間とするが、2014年6月に予定している第55回大会を50周年記念事業の節目として考えている。人間工学を社会常識とすることにより安全で安心できる社会を実現するために、人間工学の実践的普及を図るとともに今後の学会の更なる発展へ向けて、50周年記念事業に対する学会員すべてのご支援を期待している。

## 2-11. IEA 担当

{担当：藤田 祐志、河合 隆史}

- (1) IEA 担当（財務担当副会長）業務を遂行する。
- (2) リニューアルされた IEA ウェブサイトの運用を支援する
- (3) リニューアルされた IEA ウェブサイトについて IEA と JES の間で締結される覚書の締結を支援する。
- (4) その他必要なこと

## 2-11. 学会組織検討委員会

{委員長：酒井 一博、副委員長：外山みどり、松岡敏生}

役員の任期および再任制限に関する結論を得たので、本年度は、本委員会設立のもう一つの目的である学会活動の活性化にとって有効な方策と、学会組織のあり方を検討する。

検討に当たっては、学会員から幅広い意見の聴取を行うが、すでに検討が行われた「社団法人日本人間工学会の在り方に関するアンケート調査の集計結果」（2005年5月）ならびに「日本人間工学会将来計画委員会報告書」（2008年6月）、「今後の支部・部会・大会の運営に関する検討（答申）」（2008年12月）などの学会活性化策については十分に尊重して行うものとする。

## 2-13. ウェブアクセシビリティ支援委員会

{委員長：青木 和夫}

- (1) リニューアルしたウェブサイトに必要な修正を行ない、IEA Executive Committee にて確認してもらうと同時に、IEA の側の原稿提出などを引き続き依頼する。
- (2) リニューアルしたウェブサイトの評価を委員会にて行う。
- (3) リニューアルしたウェブサイトの一般公開を行う。
- (4) IEA とウェブサイトの所有権と使用権などについての覚書の締結を行う。

## 2-14. 選挙管理委員会

{委員長：吉武 良治}

一般社団法人日本人間工学会定款に規定する代議員及び役員選挙に関する業務を行うため、選挙管理委員会を設置する。

## 2-15. 第 54 回大会担当

{担当：堀江 良典}

【開催日】2013 年 6 月 1 日（土）、2 日（日）

【大会会場】日本大学生産工学部津田沼キャンパス（習志野市泉町 1-2-1）

【懇親会場】日本大学生産工学部津田沼キャンパス学生食堂

- (1) 9 件のシンポジウム（内 1 件は学会企画）を行う。
- (2) 2 件の特別講演（内 1 件は海外招待講演）を行う。
- (3) 一般講演 163 題を採択した。
- (4) 41 の学・協会等から協賛の許諾を得た。
- (5) 大会案内はホームページ（<http://jes2013.jp/>）を活用して行う。

## 3. 支部活動

### 3-1. 北海道支部

{支部長：横山 真太郎}

#### (1) 会議

- 1) 支部役員会 平成25年7月中旬（予定）
  - ・平成24年度 支部事業報告
  - ・平成24年度 決算報告並びに監査報告
  - ・平成25年度 予算案
  - ・平成25年度 支部事業計画案
  - ・平成25年度 総会について
  - ・平成26年度 支部総会並びに大会について
  - ・その他

#### (2) 平成25年度支部総会並びに大会

大会長：前田 享史（北海道大学）  
日時：平成25年10月～11月（予定）  
場所：北海道大学（予定）

##### 1) 支部総会議題

- ・平成24年度支部事業報告
- ・平成24年度決算報告並びに監査報告
- ・平成25年度予算案
- ・平成25年度支部事業計画案
- ・平成26年度北海道支部大会開催について

### 3-2. 東北支部

{支部長：北村 正晴}

#### (1) 支部役員会

平成 25 年 5 月上旬開催（予定）  
議事：平成 25 年度支部活動方針の策定  
支部総会議案および資料作成  
他，2 回程度開催の予定。

(2) 支部総会

- 1) 日時：平成25年5月下旬開催（予定）
- 2) 場所：東北大学工学研究科
- 3) 議事：平成24年度事業報告および決算報告  
平成25年度事業計画案および事業予算案  
その他

(3) 支部研究会

年3回程度の開催を予定。支部内の複数地域での開催と活動の活性化を目指す。

(4) その他

研究者と実務家の意見交換を積極的に進める計画である。

### 3-3. 関東支部

{支部長：阿久津 正大}

(1) 第43回関東支部大会

- ・開催日：平成25年12月7日(土)～8日(日)
- ・会場：首都大学東京 日野キャンパス
- ・大会長：瀬尾明彦先生
- ・特別講演、一般講演、卒業研究発表会など

(2) 支部委員会 年2回開催予定

開催日：平成25年6月1日(土) 会場：日本大学 生産工学部  
平成25年12月7日(土) 会場：首都大学東京 日野キャンパス

(3) 支部総会

開催日：平成25年12月7日(土) 会場：首都大学東京 日野キャンパス

(4) 見学会

開催日：平成26年3月に実施予定

(5) 支部役員選挙 平成25年10月～平成26年3月に実施

(6) その他

- ・基礎技法講習会、企業・研究機関交流などを開催予定
- ・ニューズレターの発行
- ・支部HPの整備を推進 など

### 3-4. 東海支部

{支部長：斎藤 真}

(1) 平成25年度一般社団法人日本人間工学会東海支部総会開催

- ・開催日時：平成25年5月18日(土)
- ・場所：名城大学名駅サテライト

(2) 講演会の開催

- ・開催日時：平成25年5月18日(土)
- ・場所：名城大学名駅サテライト
- ・演者：前名城大学教授、前日本人間工学会東海支部支部長 横森 求 氏

(3) 支部役員会

- ・年2回から3回開催予定

(4) 日本人間工学会東海支部2013年研究大会の開催

- ・開催日：平成25年11月2日(土)
- ・開催場所：椋山女学園大学(名古屋市天白区)
- ・大会長：富田明美(椋山女学園大学)

### 3-5. 関西支部

{支部長：森本 一成}

#### (1) 企画・行事等

- 1) 見学会 平成25年10月頃
- 2) 支部大会  
開催日：平成25年12月14日(土)、15日(日)  
会 場：京都工芸繊維大学  
大会長：渋谷 雄先生
- 3) 講演会等 平成26年3月頃(支部総会と併催)

#### (2) 会議・総会等

- 1) 臨時企画幹事会 平成25年4月頃
- 2) 第1回企画幹事会 平成25年6月頃
- 3) 第1回評議員会役員会合同会議 平成25年12月14日(土)(支部大会と併催)
- 4) 評議員選挙 平成25年12月～平成26年1月
- 5) 第2回企画幹事会 平成26年1月頃
- 6) 選挙管理委員会 平成26年2月頃
- 7) 第2回評議員会役員会合同会議 平成26年3月頃(総会と併催)
- 8) 支部総会 平成26年3月頃
- 9) 優秀発表賞授賞式(支部総会時)

### 3-6. 中国・四国支部

{支部長：村田 厚生}

#### (1) 支部理事会開催

- 第1回：2013年11月中旬～12月中旬，場所：広島工業大学(予定)  
第2回：2014年3月中旬～下旬，場所：岡山大学大学院自然科学研究科

#### (2) 支部総会開催

- 2013年11月中旬～12月中旬，場所：広島工業大学(予定)

#### (3) 支部大会開催

- 第46回日本人間工学会中国・四国支部大会  
2013年11月中旬～12月中旬，大会長：石原茂和先生(広島国際大学)，場所：広島工業大学(予定)

#### (4) 支部講演会開催

- 2013年11月中旬～12月中旬

#### (5) 支部表彰の実施

- 2014年3月

#### (6) 支部主催・共催の研究会の実施

- 随時

### 3-7. 九州・沖縄支部

{支部長：和田 親宗}

#### (1) 活動計画

##### 1) 第34回支部評議員会

- ・開催日：平成25年秋期開催予定
- ・会場：鹿児島県立短期大学 予定（鹿児島）

##### 2) 第34回支部大会および会員総会

- ・開催日：平成25年秋期開催予定
- ・会場：鹿児島県立短期大学 予定（鹿児島）
- ・大会長：岡村俊彦（鹿児島県立短期大学）

#### (2) その他

## 4. 研究部会活動

### 4-1. 情報社会人間工学研究部会

{部会長：平沢 尚毅}

〈H21. 4. 1～5年以内〉

#### (1) 平成25年度研究部会テーマ

今年度は、当初設定した部会の最終年度であるため、「情報社会人間工学の歩みと展望」をテーマとしてこれまでの流れを総括してゆく。

#### (2) 活動内容(手段・方法)

##### 1) ISO/TC159/SC4/WG6 とのシンポジウムの協賛

TC159/SC4/WG6 が主催する人間工学会本大会における「人間中心設計関連標準化動向とその是非」をテーマとしたシンポジウムを協賛する。

##### 2) ワークショップの開催

情報社会人間工学部会に関するワークショップを開催する。詳細については、今後、検討する。

##### 3) 活動実績の編集

これまでの5年間の活動内容を整理し編集する。その結果を基に、部会の成果を出版するかどうかを検討する。

#### (3) 期待される成果

安全、安心な社会を復興するための社会の情報技術基盤のあり方を構想するにあたり、人間工学のアプローチがどこまで貢献できたのかを再整理する。人間工学が情報社会に何が提言できるかを確認する。

### 4-2. 聴覚コミュニケーション部会

{部会長：江袋 林蔵}

〈H21. 4. 1～5年以内〉

#### (1) テーマ 人間工学における聴覚研究のミッション

概要 平成25年度は、当部会活動最終年度に当たる。Ergonomics の分野における聴覚を中心とした独自の研究領域の探索を具体的に考え、既成学会の活動に倣いつつ、アゴノミクス研究分野における独自の領域開拓を図ってきたが、他学会の関心を得られる状況になり、一応の成果が得られていると考える。本年度は、設立当初の設定期間10年が満了したので最終年度となる。

#### (2) 聴覚研究のミッション研究の手段

- 1) 研究会の開催
- 2) 幹事会の開催

3) ニュースレターの発行

(3) 方法

平成 24 年度成果を踏まえ最終年度としての研究会を立案中である。

1) 第 7 回 AEG 研究会の開催

2) ネットを通じての幹事会の開催

3) 最終年度事務局を通じたニュースレターの発行

(4) 期待される成果

最終回となる AEG 研究会は、これまでの活動の集約的性格と、部会無き後の当該分野における研究の展望的性格を持つことになる。

#### 4-3. 安全人間工学研究部会

{部会長：鳥居塚 崇}

〈H22. 4. 1～5 年以内〉

(1) 活動目的

安全人間工学研究部会は、安全に関わる人間工学の研究の情報交換と、様々な分野の安全研究者、実践者と問題を討議し、広くその成果を学会員ならびに社会に広めることを目的として活動を行う。

(2) 活動内容

1) 日本認知心理学会安全心理学研究部会との共催で、研究会を 3 回程度東京で開催する。

2) 首都圏以外の地域でも 2 回程度研究会を開催する。

3) 幹事は鳥居塚（日大）・中西（慶應義塾大）・吉村（海技研）。安全人間工学委員会の委員も部会運営に協力する。

#### 4-4. 3D 人間工学研究部会

{部会長：河合 隆史}

〈H22. 6. 1～5 年以内〉

(1) 活動目的

近年の立体（3D）映画の世界的な流行に伴い、その波及効果として 3D テレビや 3D ゲーム、3D スマートフォンなどが、急速に家庭に入ってきている。しかしながら、3D の人間工学的な側面、例えば視聴に伴う疲労をはじめ、長時間・長期間の利活用による影響や、年齢層といったユーザの属性との関連など、未知な点が多い。そこで本研究部会では、ユーザの観点による 3D 研究の情報共有や、関連する多様な分野の研究者や実務者との交流・討議などを通して、その成果を学会員および広く社会へ還元することを目的として、平成 22 年度より活動を推進している。

(2) 手段・方法・期待される成果

平成 24 年度に引き続き、セミナーやシンポジウムを開催し、当該分野の最新の知見を共有する場を形成する。平成 25 年度は、3D コンテンツの認知的特性と、その応用に着目したテーマ設定を行う。具体的には、日本人間工学会第 54 回大会において、企画シンポジウム「立体映像の認知・情動特性 — 新たな視点と可能性」の実施を予定しており、また同年秋には国際 3D 協会 日本部会などの関連団体と連携したセミナーの開催を予定している。これにより、3D の積極的な側面について人間工学的観点からイノベーションを導出し、安全かつ快適な 3D の普及に貢献していくことが期待される。

#### 4-5. 医療安全研究部会

{部会長:土屋 文人}

〈H24. 4. 1～5 年以内〉

##### (1) 活動テーマ

我が国における医療安全への人間工学分野の研究及び関係者に対する啓発活動は、この十数年の間に、医療機関や関連企業及び行政を含め定着しつつある。しかしながら医療政策のまずさから医療崩壊が発生し、慢性化した人手不足に起因したエラー、あるいはIT 導入によるコンピュータシステムとのインターフェースのまずさに起因したエラーの発生等、医療は極めて厳しい環境下におかれている。人間工学的な研究も全体的には増加しているが、未だ基盤整備段階にあるといえる。

一昨年度は医薬品の私用の安全をテーマとしたこの分野における人間工学的研究の実態を示したが、昨年度諸般の事情によりシンポジウムが開催できなかったことから、今年度は「医療分野における安全文化の定着化」を目標に、医療機関や関連企業に向けたシンポジウム開催や啓発活動を行う予定である。

##### (2) 手段・方法

###### 1) 医薬品関係

昨年厚生労働省から医療事故防止のためのバーコードに関する通知が出され、平成 27 年 7 月以降工場出荷分からは、全ての医療用医薬品の調剤単位 (PTP 包装等) にバーコードを印刷することが義務づけられた。製薬企業等においてはその対応を急ぐ必要があることから、日本病院薬剤師会等とも連携して医薬品分野における人間工学的研究の普及等を目指した講習会等の開催を行う (賛助会員のみならず、印刷業界等他分野にも参加を呼びかける)。今年度は特に後発メーカーに対して啓発活動を行うことにより、人間工学的配慮がされた製品の普及を図る。

###### 2) 医療機器関係

医薬品に対して遅れが目立つ医療機器の添付文書等の情報提供資材に関する人間工学研究の支援の方策について検討を行うとともに、可能であれば医療機器関係企業への講習会等の開催を行いたい。

##### (3) 期待される成果

医薬品企業における人間工学の認知度は二極化の傾向にある。前述のように、医療用医薬品全てに対してバーコード表示が義務づけられたことから、製薬企業は従来の工程の見直しを図る必要がある。一方で我が国の医療政策上後発品使用推進が図られていることから、後発医薬品メーカーを含めた形で、人間工学的視点の重要性の啓発活動を行うことにより、各種工夫された製品が普及することが考えられる。これにより、結果的に当該分野に関心の薄い先発メーカーも人間工学的検討を加えざるを得なくなると思われる。

診療報酬上の見直しにより、病院については安全文化の定着は見られるものの、依然として厳しい環境にある医療の世界において、医薬品や医療機器の製品の改善等による医療スタッフへの側面支援を図る。

#### 4-6. 衣服人間工学部会

{部会長:永富 彰子}

〈H24. 4. 1～5 年以内〉

##### (1) 研究テーマ

平成 24 年度より「グリーンファッションに関する研究」をテーマに活動を開始した。地球規模での温暖化、資源の枯渇などの環境問題、節電対策が問題視されている。平成 25 年度も、これらに鑑み、衣服の分野から着装のあり方、衣服の構造・デザイン、衣服材料の使い方などについて環境問題を視野に入れた研究活動、啓蒙活動を進めていく予定である。また若手人材の育成も念頭に置き、勉強会や見学会なども開催していく予定である。

##### (2) 例会の開催 年 3 回程度開催予定。

##### (3) 期待される成果

引き続き、大学・学校関係者だけでなく、アパレル産業など幅広く部会への参加を呼びかける。衣服人間工学

の現状をとらえ、最新の研究などの情報収集や勉強会を行い、情報発信することで、アパレル産業における衣服設計生産の現場で環境問題を視野に入れた衣服人間工学が活用され普及することが期待される。

#### 4-7. 触覚インタラクション研究部会

{部会長：小谷 賢太郎}

〈H24. 4. 1～5年以内〉

##### (1) 活動テーマ

触覚インタラクションに関する国内外の研究者のコラボレーションを促進し、具体的なプロジェクトを立ち上げやすいよう、環境を整備する。

##### (2) 活動計画

- 1) HCI International 2013 において Tactile and haptic interaction in HCI と題するオーガナイズドセッションを行い、海外の研究者との研究交流を目指す。
- 2) 平成 26 年度の人間工学会全国大会においてオーガナイズドセッションを企画する。
- 3) 2014 年 3 月に研究会を開き、関連の研究者による特別講演を開催する。
- 4) 2014 年度に行われる AHFE2014 (the 5th International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics 2014) のオーガナイズドセッションの準備を行う。

#### 4-8. 航空人間工学部会

{部会長：田中 敬司}

〈H25. 4. 1～5 年以内〉

##### (1) 研究目的

航空人間工学に関する知識の普及、情報の共有化を目的として、本年度は「航空事故の教訓から学ぶ」をテーマとし、航空事故事例から得た人間特性及びマンマシンインタフェースに関わる問題、次世代の航空機等における事故防止技術の動向を分析検討する。

##### (2) 方法・手段

###### 1) 研究例会の開催

日時：平成 25 年 6 月 28 日(金) 10：00-16：30

場所：国立オリンピック青少年記念センター、センター棟 101 号室

【予定講演】として

- 1) 気象情報の視覚化について
- 2) エールフランス 447 便墜落事故
- 3) アップセットトレーニングについて
- 4) 航空事故調査から得られる教訓

###### 2) 施設見学会の実施

下期に施設見学会を計画・実施する。

###### 3) 部会ホームページの運営

インターネットを使った部会ホームページを活用して当研究部会の活動内容を広く周知するとともに、活動案内の掲示や会員からの参加申し込みを活用する。本年度は、より質の高い内容の掲載し充実を図る。

###### 4) 委員会・幹事会の開催

適宜委員会及び幹事会を開催し、部会活動を円滑に行うとともに、会員の意見を部会活動に反映させるよう努める。

###### 5) 例会資料の電子ファイル化の継続

昨年同様、本年度開催される例会資料を CD-ROM 化し、社団法人日本航空協会が運営する航空図書館に寄贈し、

一般の供覧に提供する。なお、講演者の承諾を得られたものについてのみ実施する。

(3) 期待される成果

航空安全の推進に関わる官・民・学および諸外国をも含めた多くの組織が関わっているため、これらの関係者が交流し討議を重ね、情報を共有する場を当研究部会が提供することにより、航空人間工学の知見獲得が可能となる。また、航空の安全の推進へ大きく貢献できるものとする。

#### 4-9. アーゴデザイン部会

{部会長：上田 義弘}

〈H25. 4. 1～5年以内〉

(1) 活動テーマ

「HCD+SCD でアーゴデザインを考える」

新たに発生している社会の動きや倫理観の変化、多様化する人々の価値観等を広く総合的に捉え、これからのアーゴデザインを実践するためのHCD+SCDの方法論を探求していく。特に今年度は、これまでの検討結果を踏まえ、SCDの定義や具体的な検討手法について議論を深めていく。具体的な進め方としては、産業界からの参加が多い部会特性を生かしてSCD-WG活動を強化することで、様々な見識や具体的な事例を得てSCD検討のための手法開発を図りたい。

(2) 手段・方法

1) ワーキンググループ(WG)活動の強化

ビジョン提案型デザイン手法-WGは、講習会やSIGミーティングを通じて手法の普及、啓蒙活動を推進する。また、SCD-WGは、本年度の部会活動のテーマである「HCD+SCD」の検討を本格化させ、新たな方法論のフレームを明確にする。なお、当部会のWebサイトの改善を進め、会員相互の情報交換と部会活動の広報を強化するために、Webサイト改善-WGの活動もこれまで以上に推進する。

2) 学生会員に対する部会活動の充実

昨年度設置した学生会員制度により、学生会員が増加している。これまで以上に学生会員の研究やデザイン活動を支援するために、「大学間交流イベント」の開催及び内容の充実を図る。これにより更なる学生の参加を促し、部会員の層を厚くすると共に、次世代を担う研究者やデザイン実務者の育成を強化する。

3) 独自ドメイン[ergo-design.org]による部会員コミュニケーション、広報活動の強化

Webサイトの改善を進め、活用性や利便性を高める予定である。これにより、部会員への情報伝達やコミュニケーションを強化する共に新規部会員の獲得を図りたい。また、部会員との連絡手段として、メーリングネットワークやSIG等の運用も一層強化したい。

(3) 期待される効果

「ビジョン提案型デザイン手法」の啓蒙・普及により、産業界に貢献できる。また、アーゴデザイン研究の向かうべき方向性として、本年度からSCDの検討を本格化することで、将来の社会、環境のあり方を見通し、人間生活をデザインするための基盤となるデザイン方法論（プロセスや手法）を提供することができる。

(4) 活動予定

4月 幹事会(幹事の役割、担当行事の検討)

6月 大学間交流イベントの開催、幹事会、SCD-WGセッション

7月 HCII2013での「ビジョン提案型デザイン手法」の発表(本手法の海外展開を進める)

8月 コンセプト事例発表会、幹事会、サイト改善-WGセッション

10月 見学会、幹事会、SCD-WGセッション

12月 関東支部大会シンポジウム開催

関西支部大会シンポジウム開催、幹事会、SCD-WGセッション

- 1月 幹事会、サイト改善-WG セッション
- 2月 SCD-WG セッション
- 3月 合宿研究会、総会、幹事会

#### 4-10. 感性情報処理・官能評価部会

{部会長：宇賀神 博}

〈H25. 4. 1～5年以内〉

##### (1) 目的

当部会は、感性情報処理と官能評価に関わる諸問題を基礎から応用まで幅広く、様々な角度から議論し、研究者同士が互いに刺激し合って、優れた感性情報処理、官能評価研究が輩出されるような場を提供することを目的とする。さらに、この領域の優秀な若手研究者を育成することを目指している。

##### (2) 手段・方法

感性の主体である人間の感覚、知覚、感情、認知のメカニズム、測定・評価方法、数理モデル等に関する先端的な研究を行っている研究者を招いた講演会や、活発な活動を行っている研究機関への見学会など、年数回の研究会合を企画、実施する。それらを通して部会員の知識の幅を広げるとともに、研究者間の交流を図る。また若手研究者の研究意欲を喚起し、具体的なアウトプットを生み出してゆく支援となる場としての機能を充実させるため、大学院生や卒業論文を執筆した学部生などが発表する機会を積極的に作り出していきたい。

##### (3) 期待される効果

講演会や各種見学会を通じて新しい知識や手法を知るとともに、手法の会得やその応用を目的とした各種研究会の実施により、若手研究者への啓発や本領域の研究者の裾野を増やすことが期待される。さらに、感性情報処理と官能評価手法についての理解が広まることにより、工学の様々な分野で人間理解が進み、学会における研究活動も盛んになることが期待できる。

#### 4-11. 看護人間工学部会

{部会長：佐伯 由香}

〈H25. 4. 1～5年以内〉

##### (1) テーマ

より安全で安楽な根拠ある看護技術や看護器械・用具の開発、QOLの向上に向けた環境の提案、快適な職場や住まい、高齢者に優しい環境などの研究成果を発信する。

##### (2) 手段・方法

###### 1) 第21回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会の開催

平成25年10月12日(土)に滋賀県立大学交流センターにおいて伊丹君和教授が主催し、第21回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会を開催する予定である。一般演題10題を目標に部会員に呼びかけ、参加を促す。

###### 2) 日本人間工学会誌に部会から論文を投稿するよう呼びかける。

###### 3) 日本人間工学会第54回大会に参加するよう呼びかける。

###### 4) 看護人間工学研究誌第14巻を発行(平成26年3月)し、部会員に送付する。

###### 5) 看護人間工学部会のホームページの英語版を含めて内容を充実させる。

##### (3) 期待される成果

###### 1) 第21回看護人間工学部会 総会・研究会への発表、参加者を昨年より増やす。

###### 2) 日本人間工学会第54回大会への発表、参加人数を増やす。

###### 3) 看護人間工学部会、人間工学会への入会者を増やす。

###### 4) 部会員による「人間工学」、「看護人間工学研究誌」の投稿を増やす。

#### 4-12. 海事人間工学研究部会

{部会長：吉村 健志}

〈H25. 4. 1～5年以内〉

##### (1) 研究目的

当部会は、“海”と関わる人間を対象とした、教育訓練、現場の安全性向上、労働安全衛生、交通の快適性、各種ナビゲーション機器、ヒューマンインターフェース、ロボット、バイオメテック等に対する、教育者、研究者、現場の専門家がそれぞれの側面から問題点を議論し、実学的研究を活発に行える場を提供することを目的とする。さらに、教育研究者数の少ない海事分野における人間工学的研究を促進させることを目指す。

##### (2) 方法・手段

###### 1) 研究会の開催

年1回、研究会を開催し、最新情報、及び意見等の交換を行うとともに、交流を深める。さらに新しい問題点の発掘を行う。

###### 2) 施設見学

年1回、海事または輸送分野に関する施設見学を実施することで、現場の実態を理解するとともに、現場の意見を積極的に取り入れた実学的研究の発展に努める。

###### 3) 幹事会の開催

年1回以上、幹事会を開催し、部会活動の計画および評価を行う。平成25年6月、日本大学にて開催する予定。

###### 4) 企画セッションの提案

年1回、全国大会や支部大会、または人間工学関連の国際会議での企画セッションの提案を行う。平成25年10月、英国マンチェスターで開催されるIEEE SMC2013にて、OS: Human Centered Transportation Systemsを企画する。

##### (3) 期待される効果

研究会および見学会を通じて、現場の最前線および教育研究の現状を理解し、さらに相互交流を行うことで、海事分野に関わる関係者への啓発となる。また、海事分野の若手研究者の開拓、人間工学分野に係わる研究者の獲得にもつながると期待できる。

#### 4-13 システム大会部会

{部会長：衛藤 憲人}

##### (1) 本会の目的

システム部会は、人間をシステム論的立場から研究する部会であり、毎年3月中旬に卒研究生を中心に研究成果を発表している。卒研究生は、日本人間工学会全国大会（毎年6月開催）や支部大会開催の時期ではまだ研究成果がまとまっていない状態なので、3月中旬に開かれる本部会は、社会に巣立つ卒研究生にとって重要な発表の場である。本部会の発表会は「システム大会」と称し、すでに20回開催されている。2日間の開催予定で、学生や教員が他大学の学生、教員や研究者と議論ができるため学生達に好評である。

##### (2) 活動の内容

平成24年度（第21回大会）は文化学園大学（新宿キャンパス）にて開催した。25年度も同様に開催し、学生を初めとする若い研究者、研究者の卵を人間工学に興味をもってもらい、日本人間工学会会員にすべく努力する予定である。そのために、複数の幹事会（教員、研究者）と3月中旬の第22回人間工学システム大会を予定している。

一般社団法人日本人間工学会 2013 年度 委員会/担当等一覧

委員会/担当名	担当・委員長・副委員長等	活動のポイント等
常設委員会・担当（長期的及び継続的に実施する事業）		
総務担当	堀江良典、大内啓子	学会運営の執行管理、事務局機能の強化の検討
財務担当	三林洋介、三宅晋司	財務管理と学会財政に関する中長期計画等の提案
広報委員会	榎原 毅、松田文子	HP の運用推進、GPDB による実践事例公開、人間工学の社会発信
編集委員会	大須賀美恵子、榎原 毅	学会誌の編集と発行、電子投稿・査読システムの運用、著作権規程の検討
国際協力委員会	小谷賢太郎、鳥居塚崇	国際人間工学連合・日韓共同シンポジウム等、国際協力活動の推進
ISO/TC159 国内対策委員会	横井孝志、吉武良治	ISO/TC159 に関わる規格の提案・作成・審議、JIS 規格案作成と普及
表彰委員会	阿久津正大、矢口博之	表彰制度の見直しと整備、各賞受賞候補者の選考、国際表彰の推進
安全人間工学委員会	芳賀 繁、首藤由紀	安全に関わる学会活動の提言等、安全工学シンポジウム運営への参加
学術担当	斉藤 進、青木和夫	日本学術会議との連携、科研費の細目要望、行動規範ガイドラインの検討
企画担当	河合隆史、青木和夫	公開講座の企画、大会における学会企画シンポジウムの企画等
人間工学専門家認定機構	吉武良治、福住伸一	認定・再認定実施、講演会・セミナー等の開催、GPDB への協力
臨時委員会・担当（目標と期間を定め、成果を組織的に活用する事業）		
50 周年準備委員会	斉藤 進、青木和夫	50 周年記念事業の企画
IEA 担当	藤田祐志、河合隆史	IEA ウェブサイトのリニューアルおよび運営にかかわる支援
学会組織検討委員会	酒井一博	学会組織と定款の検討、役員任期および再任制限に関する検討
ウェブアクセシビリティ支援委員会	青木和夫	IEA ウェブサイトのリニューアルの実施とアクセシビリティ評価
選挙管理委員会	吉武良治	一般社団法人日本人間工学会代議員及び役員選挙の実施
第 54 回大会担当	堀江良典、鳥居塚崇	2013 年 6 月 1～2 日に大会開催
第 55 回大会担当	川野常夫	2014 年 6 月 5～6 日に大会開催